

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10304		単位数	4単位	対象 学年	1年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-00.H		時間	60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	齊藤 隆之				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 大学生として必要となるアカデミックスキルを身につけることをベースにしつつ、主体的な学びから実践力を醸成するためのPBL（問題解決型学習）に挑戦する。本ゼミでは哲学カフェに代表される「カフェ文化」を重視しながら学生と教員、学生と学生双方向でのやりとりを基本としてゼミナールの学びを深めていく。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している										
到達 目標	STEP1：大学における学びの基本を理解する STEP2：アカデミックスキルを理解し、活用できる STEP3：主体的に学び、他者と関係を形成して活動することができる										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	ゼミ開き チームビルディング	・ゼミの概要説明／自己紹介 ・マシュマロチャレンジ ・社会人基礎力チェック			カフェ トーク/ 演習	第16回	Free talk Cafe	前期の振り返りと夏休みの体 験の共有			カフェ トーク
第2回	アカデミックスキ ルCafé 1	「講義」になにを求めるか？ 主体的に学ぶことと計画立案力			カフェ トーク	第17回	アカデミックスキ ルCafé9	ディベートとは？ ディベートの基礎知識			カフェ トーク
第3回	アカデミックスキ ルCafé 2	コミュニケーションと情報 パナナの魅力を100文字で… 統率力／協働力／意思決定力			カフェ トーク /GW	第18回	アカデミックスキ ルCafé10	ディベートのテーマの決定 Evidence-based practice： EBPとは			カフェ トーク
第4回	アカデミックスキ ルCafé 3	情報収集力と情報分析力 チームレポート			カフェ トーク /GW	第19回	アカデミックスキ ルCafé11	ディベート①			ディベ ート
第5回	アカデミックスキ ルCafé 4	様々な思考法と情報整理①			カフェ トーク /GW	第20回	アカデミックスキ ルCafé12	ディベート②			ディベ ート
第6回	アカデミックスキ ルCafé 5	様々な思考法と情報整理②			カフェ トーク /GW	第21回	アカデミックスキ ルCafé13	ディベートの振り返りと「根 拠を持つ」ことを考える			カフェ トーク
第7回	アカデミックスキ ルCafé 6	課題を発見する力と構想力			カフェ トーク /GW	第22回	PBLCafe7	PBL課題にチャレンジ7 課題の発見とテーマの設定			カフェ トーク /GW
第8回	アカデミックスキ ルCafé 7	フリートーク（進行調整日） ※他の回と入れ替えあり			カフェ トーク /GW	第23回	PBLCafe8	PBL課題にチャレンジ 8			GW
第9回	アカデミックスキ ルCafé 8	文書に必要な要素とは？ レポート作成のテクニック			カフェ トーク/ 演習	第24回	PBLCafe9	PBL課題にチャレンジ 9			GW
第10回	PBLCafé 1	PBL（問題解決型学習）とは ガントチャートとは PBL課題チャレンジ 1			カフェ トーク /GW	第25回	PBLCafe10	PBL課題にチャレンジ 1 0			GW
第11回	PBLCafé 2	PBL課題にチャレンジ 2			GW	第26回	PBLCafe11	PBL課題にチャレンジ 1 1 ゼミ内プレゼンテーション			プレゼン テーショ ン
第12回	PBLCafé 3	PBL課題にチャレンジ 3			GW	第27回	Student Cafe1	学生企画活動 1			
第13回	PBLCafé 4	PBL課題にチャレンジ 4			GW	第28回	Student Cafe2	学生企画活動 2			
第14回	PBLCafé 5	PBL課題にチャレンジ 5 プレゼンテーションとは			カフェ トーク /GW	第29回	Student Cafe3	学生企画活動 3			
第15回	PBLCafé 6	PBL課題にチャレンジ 6 ゼミ内プレゼンテーション			プレゼン テーショ ン	第30回	ゼミ終い	1年間の振り返り～次年度へ			カフェ トーク
授業方法 (わ ずか り ア ン ケ ン グ 等)	PBL（問題解決型 学習）	グループワーク	ディベート	誘導ディスカッショ ン							
評価 方法 及び 評価 基準	「授業への参加度30% 各活動への取り組み状況70%」をベースとして、総合的に評価します。										
課題等	必要に応じて別途指示します。										
事前事後 学修	各回ごとに事前事後学習については指示します。										
教材 教科書 参考書	【教科書】アカデミック・スキルズ(第3版) 一大学生のための知的技法入門 出版社：慶應義塾大学出版会 価格：1,100円（税込） ISBN：978-4-7664-2656-4										
留意点	私のゼミでは、ゼミ生主導で学生自らが作り上げていく場面が多くあります。そのため、①自身の意見を述べようとする ことが出来る（どんなに不完全な意見でも否定しないので、自分の意見を述べようとする事が大切です。）②人任せにしない ③和を乱さないなどの、基本的な約束事を大切に出来る学生を歓迎します。また、カフェ文化を大切に、リラックスし た雰囲気を進めていきます。										

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10305		単位数 時間	4単位	対象 学年	1年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-00.H			60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 年間を通じて、いわゆる「ディベート」を行う。すなわち、一定のテーマについて、例えば、賛成/反対といった立場に分かれるなどして、互いの主張を展開しつつ、相手を論破することを目指す。テーマの選定、司会進行などは、基本的に、履修者が行う。また、テーマの選定のために、図書館の利用や、インターネット等の活用も、適宜行っていく。さらに、ディベートの判定・評価も学生が行う。その場合、自分としてどちらの立場に賛成か・反対かではなく、どちらのディベーターの方がより説得力あるディベートを展開したかで判定する。また、そのように判定するについて、どういうところに説得力を見出したかをコメントすることも併せて求める。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している										
到達 目標	ディベートを通して、「論理的に考え、丹念に調べ、しっかりと発表する」力の修得を図る。議論を恐れず、むしろ議論に親しみ、楽しめる位習熟すれば、たとえば、将来社会福祉の専門職として、援助過程において他専門職の間でも、有意義に議論を重ねることも大いに期待できよう。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ①				第16回	ディベート	ディベートを行う			
第2回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ②				第17回	ディベート	ディベートを行う			
第3回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ③				第18回	ディベート	ディベートを行う			
第4回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ④				第19回	ディベート	ディベートを行う			
第5回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ⑤				第20回	ディベート	ディベートを行う			
第6回	ディベートに向けて	模擬ディベート				第21回	ディベート	ディベートを行う			
第7回	ディベートに向けて	模擬ディベート				第22回	ディベート	ディベートを行う			
第8回	ディベートに向けて	資料・情報の収集				第23回	ディベート	ディベートを行う			
第9回	ディベートに向けて	資料・情報の収集				第24回	ディベート	ディベートを行う			
第10回	ディベート	テーマの設定				第25回	ディベート	ディベートを行う			
第11回	ディベート	ディベートを行う				第26回	ディベート	ディベートを行う			
第12回	ディベート	ディベートを振り返る				第27回	ディベート	ディベートを行う			
第13回	ディベート	テーマの設定				第28回	ディベート	ディベートを行う			
第14回	ディベート	ディベートを行う				第29回	ディベート	ディベートを行う			
第15回	ディベート	ディベートを振り返る				第30回	ディベート	ディベートを行う			
授業方法(わ てんぽ、ア ブ・ラング等)	グループワーク	ディベート									
評価 方法 及び 評価 基準	例年と同様に、ディベートの勝敗は評価の対象とはしない。むしろ、毎回、どういう姿勢で取り組み、ディベーターとしてどのような議論や質問を行い、あるいは、判定者としてどのような観点で判定を行ったかといったことを評価の対象とする。										
課題等	特になし										
事前事 後学修	事前学修に関しては、ディベーターとしてディベートに向けた準備を綿密に行うこと。事後学修に関しては、ディベートで得られた知見をしっかり理解できるようにすること。										
教材 教科書 参考書	特に指定しない。										
留意点	どんなに熱い心を持っていようと、ディベートの勝敗等に感情的になりやすい人には履修をすすめない。										

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10306		単位数 時間	4単位	対象 学年	1年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-00.H			60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	松本 郁代				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕										
	前期：岩波新書程度の文献を読み、書物を読むことに慣れ、レジュメを作成して本の内容を説明することが中心となる。 後期：前期に続いて、文献を読む。図書館で文献を検索し、論文の検索方法を身につける。ディベートを行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している										
到達 目標	学問に取り組むうえで、最低限必要となる基礎的な力を身につける。曖昧なネット情報のみで発言する学生がいるが、科学的根拠のある情報を合理的に入手し、それを読み解き、人に伝えたり、意見を交換することが出来るようになること。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	ゼミ開き	自己紹介・ゼミの概要説明				第16回	読み書き報告①	岩波新書を読んで報告⑩			サブゼミ・ プロゼミ の運営
第2回	読み書き	文献の読み方およびレジュメの書き方				第17回	読み書き報告②	岩波新書を読んで報告⑪			サブゼミ・ プロゼミ の運営
第3回	初めての報告	岩波ジュニア新書を読んで報告①			報告	第18回	読み書き報告③	岩波新書を読んで報告⑫			サブゼミ・ プロゼミ の運営
第4回	報告に慣れよう	岩波ジュニア新書を読んで報告②			報告	第19回	読み書き報告④	岩波新書を読んで報告⑬			サブゼミ・ プロゼミ の運営
第5回	判りやすいレジュメ	岩波ジュニア新書を読んで報告③			報告	第20回	読み書き報告⑤	岩波新書を読んで報告⑭			サブゼミ・ プロゼミ の運営
第6回	図書館利用の方法①	図書館探検			文献検索	第21回	読み書き報告⑥	岩波新書を読んで報告⑮			サブゼミ・ プロゼミ の運営
第7回	奥付とは	岩波ジュニア新書を読んで報告④			報告	第22回	図書館利用の方法③	文献検索自由自在			文献検索
第8回	章・節・項	岩波ジュニア新書を読んで報告⑤			報告	第23回	ディベートとは	ディベートの基礎知識			
第9回	単行本とは	岩波ジュニア新書を読んで報告⑥			報告	第24回	ディベートのテーマ	ディベートのテーマを考える			
第10回	雑誌論文とは	岩波ジュニア新書を読んで報告⑦			報告	第25回	ディベート、その前に	科学的根拠のある意見とは			
第11回	目次を見よう	岩波ジュニア新書を読んで報告⑧			報告	第26回	図書館利用の方法④	文献検索実行			文献検索
第12回	あとがきに注目	岩波ジュニア新書を読んで報告⑨			報告	第27回	ディベートに臨む	ディベートで対戦①			ディベ ート
第13回	図書館利用の方法②	図書館検索をしてみよう			文献検索	第28回	再びディベート	ディベートで対戦②			ディベ ート
第14回	前期レポート執筆①	書評とは何か				第29回	ディベートで書く	議論した内容を文字にする			執筆
第15回	前期レポート執筆②	書評を書く				第30回	一年間のまとめ	ゼミの成果を確認する			
授業方法(わ ずらい、70分 ブランチ等)	文献検索・報告・サブゼミ・ディベート										
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点70%、レポート（上記到達目標に照らして評価する）30%										
課題等	毎回、全員同じ範囲を読んで、レジュメを提出すること。範囲は、その都度指定する。										
事前事後 学修	一般的に大学における学習は、文献を読むことを前提としている。そのことから、岩波新書を毎日1頁程度読むことになる。読んでレジュメを作成すること。またその際、読めない漢字は、漢和辞典で調べ、判らない意味の言葉は、国語辞典を中心に調べて、テキストに書き込んでおくこと。										
教材 教科書 参考書	森 靖雄 (2014) 『シリーズ 大学生の学びをつくる 大学生の学習テクニク』 大月書店、ISBN:978-4-272-4132、 真山 仁 (2022) 『“正しい”を疑え!』 岩波ジュニア新書、ISBN:978-4-00-500957-2										
留意点	辞書類を必ず持参すること。電子辞書可（ただし、充電しておく、電池のスペアを持ってこることなど、不測の事態に対処できるようにしておくこと）。岩波新書については、別途指示をする。										

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10307		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-00.H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	棟方 達也				授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の所属先として、ゼミ生どうしのコミュニケーションや親睦を重視する。 ・演習としては、書籍、マスメディア、WEB等、様々な情報源からスポーツに関する題材を取り上げ、課題を見出し、考察する。 <p>〔情報リテラシー教育、ICT活用〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ppt.を使用した報告、発表の仕方を実践的に学ぶ。〔プレゼンテーション〕 ・ゼミ伝統の「岩木山登山」は必須課題。〔実習、フィールドワーク〕 										
	<p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している</p>										
到達目標	スポーツや身体に関する個別研究〔各自で研究課題を設定し、適切な方法で調べまたは実践し結論を出す。〕をレポートにまとめ、ppt.を使用して発表する。〔ディスカッション、プレゼンテーション〕										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	顔合わせ	ガイダンス、自己紹介、スケジュールの確認等				第16回	岩木山登山報告	報告書作成と振り返り（行動記録、写真等を整理し、報告書にまとめておくこと）			
第2回	親睦	レクリエーション活動				第17回	個別研究に向けて	個別研究の構想から発表までの流れの確認			
第3回	大学における学習活動の基本事項	レポートの書き方、図書館利用 他				第18回	個別研究：計画1	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの設定（大テーマからの絞り込み） ・構成 			
第4回	情報源と情報収集1	文献の調べ方				第19回	個別研究：計画2				
第5回	情報源と情報収集2	いわゆる「ネット情報」の扱い方			WEB, ICT活用	第20回	個別研究：計画3				
第6回	情報の収集、検証、整理1	スポーツに関するネット情報の収集、検証、整理とその報告 出典の明示や信憑性の確認 等			WEB, ICT活用	第21回	個別指導1				
第7回	情報の収集、検証、整理2					第22回	個別指導2				
第8回	情報の収集、検証、整理3					第23回	個別指導3				
第9回	情報の収集、検証、整理4					第24回	個別指導4				
第10回	情報の収集、検証、整理5					第25回	個別指導5				
第11回	親睦	ランチパーティー				第26回	個別指導6	個別に進捗状況を確認し指導する。（指導を受けていない時間は、各自、WEBや図書館を利用して活用する。）各自、研究テーマにより研究の方法が異なってくるので、日程に余裕を持って計画的な進め方が求められる。			WEB, ICT活用
第12回	岩木山を知る1	岩木山を題材として様々な分野を分担で調査、報告する			グループワーク	第27回	研究成果の提出	内容の最終確認			
第13回	岩木山を知る2	岩木山を題材として様々な分野を分担で調査、報告する			プレゼンテーション	第28回	報告集作成	全員のレポートを印刷し、一冊に綴じる。			
第14回	登山の計画と準備	計画の立て方、地図の使い方、コース計画、装備計画、飲食計画 等				第29回	発表の準備	発表用ppt.作成（冬休み中にある程度準備しておくことが望ましい）			
第15回	ゼミ登山	岩木山登山（夏休み中）			フィールドワーク	第30回	発表	ppt.等を使用した研究発表会			プレゼンテーション
授業方法(わく、デモ、グループワーク等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成							
評価方法及び評価基準	ゼミへの参加状況（出欠、遅刻、早退）、前期課題および後期の個別研究を点数化し、総合的に評価する。課題については、積極的に指導を受け、指定された様式でまとめられているかを評価する。また、特に個別研究では、オリジナリティを重視する。										
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに関する多様なテーマについて、より信憑性の高い情報に基づき考察する。 ・情報源（出典）を明示することの重要性を学ぶ。 ・岩木山登山 										
事前事後学修	普段からWEB以外の情報（書籍、新聞、パンフレット等）にも目を向ける。授業時以外での十分な下調べが求められる。										
教材教科書参考書	必要に応じてプリント配布またはWEBを指定する。										
留意点	ゼミ全体あるいは個別の連絡には、Teamsのチャットを活用するので、確認できるようにしておくこと。 パソコンを使用したレポート作成やプレゼンテーションをするので、各自、ノートパソコンを必ず所有すること。										

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10309		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年			
			科目ナンバリング	W-BFBE1-00.H										
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	宮田 将希				授業 形態	演習	単独				
授業の 概要	〔授業の主旨〕 大学で学びを始める上で必要な基礎的な知識を身につける。文献の読み方や文章の書き方、他者とのコミュニケーションの取り方について、演習を通して学んでいく。													
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している													
到達 目標	文献を読み、その内容について要約や議論する力を身につける。 適切な文章の書き方やそれを発信する力を身につける。 他者と円滑なコミュニケーションを取れるようにする。													
授 業 計 画														
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考			
第1回	オリエンテーション	自己紹介・授業の進め方の説明				第16回	オリエンテーション	授業の進め方の説明						
第2回	大学での学習	大学での講義の受け方、予習や復習について				第17回	グループワーク・ディスカッション	それぞれの興味関心がある課題についてのディスカッションを行う。 課題やテーマに対して自らの意見を考え、発信していく。ディスカッションを円滑に実施するために必要なコミュニケーション能力の向上を目指した演習を行う。						
第3回	グループワーク	演習をする上で必要なコミュニケーション技法について				第18回	グループワーク・ディスカッション							
第4回	グループワーク					第19回	グループワーク・ディスカッション							
第5回	グループワーク					第20回	グループワーク・ディスカッション							
第6回	文献の読み方				文献を読み、それに関するディスカッションを行う							第21回	グループワーク・ディスカッション	
第7回	文献の読み方											第22回	グループワーク・ディスカッション	
第8回	文献の読み方		第23回	グループワーク・ディスカッション										
第9回	文献の読み方		第24回	グループワーク・ディスカッション										
第10回	文章の書き方	レポートのまとめかたや調べ学習の発表の技法について				第25回	グループワーク・ディスカッション							
第11回	文章の書き方					第26回	グループワーク・ディスカッション							
第12回	文章の書き方					第27回	グループワーク・ディスカッション							
第13回	文章の書き方					第28回	グループワーク・ディスカッション							
第14回	まとめ	自身でテーマを設定し、それに関する発表を行う				第29回	まとめ				自身でテーマを設定し、それに関する発表を行う			
第15回	まとめ					第30回	まとめ							
授業方法(わ ずみ、7分 ブレイク等)	グループワーク	PBL(問題解決型 学習)	発表、ポスター作成											
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（出席・発言・発表）に応じて総合的に評価。													
課題等	適宜指示します。													
事前事後 学修	授業ごとに提示する教材について事前に読んでおく。													
教材 教科書 参考書	授業ごとに必要な教材は指定する。													
留意点														

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10310	単位数 時間	4単位	対象 学年	1年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-00.H		60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	演習	単独
授業の 概要	〔授業の主旨〕 小論文の文章作成能力を学生自らが上げていくことを目標とする。学生が自ら1年間発表していくテーマを決めて、順番に発表して、能力を磨いていきます。発表した内容について、他の学生が疑問や意見を述べ、発表者はさらに自らの能力を磨いていきます。こうした能力は、社会人になってからも必要であり、その磨き方を1年次からコツコツと学生自らが学んでいきます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している									
到達 目標	前述の能力を身につけた上で、教員が課した文章に的確に答えられる能力を身につけます。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	自分でテーマを決定	自分でテーマを決めることの意義について理解する。		第16回	マンガとアニメについて	我が国のマンガとアニメは、今や世界的にも高評価である。これはなぜか。				
第2回	大学の講義とは	大学で講義に慣れ、これから学ぶことの意義を理解。		第17回	映画について	近年、映画はかなり作られている。その原因を探ろう。				
第3回	演習とは何か	講義と演習（ゼミ）の理解。		第18回	ドキュメンタリーについて	ドキュメンタリーとは何かについて探る。				
第4回	実習とは何か	講義と演習（ゼミ）と実習の違いの理解。		第19回	テレビ・コマーシャルについて	最近10年間に流されるコマーシャルの特徴。				
第5回	作文とは何か	小学生の頃から書いてきた作文について。		第20回	テレビ・ニュースについて	テレビ・ニュースについて考える。				
第6回	感想文とは何か	読書後と体験後の文章について。		第21回	民間テレビ局について	民間テレビ局について考える。				
第7回	エッセイとは何か	雑誌や新聞に出てくるエッセイとは。		第22回	民間ラジオについて	民間ラジオについて考える。				
第8回	レポートとは何か	レポートは「報告」と訳されように、合ったことや見たことを文章化する。		第23回	NHKについて	NHKの受信料と政治的中立性について。				
第9回	小論部とは何か	テーマについて論理的に展開した上で、自分の考えはこうだと述べる。		第24回	テレビ局と番組制作会社について	番組制作会社の影響力の大きさについて。				
第10回	図書館について	自らが読みたい、考えたいことについて自由に調べられる場所。		第25回	メディアと大手プロダクション	最近の問題について。				
第11回	全国紙の特徴	読売・日経・産経と朝日・毎日の思想。		第26回	健康食品とコマーシャルについて	これらのコマーシャルは非常に多い。そのもつmん大店は。				
第12回	インターネットのの情報	インターネットの情報の長所・短所。		第27回	小説について	学生がこれまで読んできた小説。				
第13回	(本県)地方紙の特徴	陸奥新報・東奥日報・デーリー東北。		第28回	ハウ・ツー本について	その長所と短所について。				
第14回	大手月刊誌の特徴	世界・文藝春秋・中央公論など。		第29回	スマホとメールについて	その長所と短所について。				
第15回	大手週刊誌	大手週刊誌（週刊文春・週刊新潮）		第30回	情報社会と人権について	その長所と短所について。				
授業方法(オンライン、PPT、ブレインストーミング等)	学生が発表した内容で、気になることを全員で討議する。									
評価方法及び評価基準	本演習への取り組み態度ができていれば、年度の最後に仕上げた諸論文のまとめによって成績を評価します。									
課題等	文章の作り方など、気になることは何でも質問して下さい。									
事前事後学修	文章の作成途中でも、質問に来て下さい。									
教材教科書参考書	文章の作り方などの参考書は自分で選んで下さい。									
留意点	上記授業内容は、基礎演習の中で、時間があいたときに教員が学生に説明を心がけるものです。学生の要望がなければなりません。									

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10313		単位数 時間	4単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H			60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	大原 さやか				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 この授業では、精神保健福祉分野における文献精読と議論を通して自分自身が持っている価値観や支援観を考える機会とする。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ストレngthsという言葉を明確に捉えることと、本人の希望を叶える支援をどのように展開するかという視点を養う。 ・ 文献精読を通して分かったことや疑問などを毎回提出し、議論を通して自分自身の考えを深めていくことで、ゼミ受講前とゼミ受講後では考え方の変化など、学生自身の成長を期待する。 ・ プレゼンやレポート作成を通して、自分自身の考えをまとめて分かりやすく伝えることができるようになる。 										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	オリエンテーション	自己紹介やゼミの進め方				第16回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第2回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。				第17回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第3回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。				第18回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第4回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。				第19回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第5回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。				第20回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第6回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。				第21回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第7回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。				第22回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第8回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。				第23回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第9回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。				第24回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第10回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。				第25回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第11回	自分で調べて報告	精神保健福祉に関することを調べて報告する				第26回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第12回	自分で調べて報告	精神保健福祉に関することを調べて報告する				第27回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第13回	自分で調べて報告	精神保健福祉に関することを調べて報告する				第28回	文献の購読、議論	文献を精読し、議論をする。			
第14回	自分で調べて報告	精神保健福祉に関することを調べて報告する				第29回	学生報告	ストレングスとは何か？について報告する。			
第15回	自分で調べて報告	精神保健福祉に関することを調べて報告する				第30回	学生報告	ストレングスとは何か？について報告する。			
授業方法(わ てんぽ、7774 ブ・ラング等)	ディベート	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	リフレクションシー ト							
評価 方法 及び 評価 基準	授業の参加状況（リアクションペーパー・毎回提出する理解したこと、疑問点など・担当レジュメ）70% （前期、後期プレゼン）20% 最終レポート10%										
課題等	第12回～第15回まで、精神保健福祉に関することを調べてプレゼンする。 第29回、第30回にて演習を通して学んだことをプレゼンする。 最終レポートとして、1年を通して学んだことを文章にまとめて提出する。										
事前事後 学修	担当箇所の人にはレジュメを4PIに人数分まとめて提出。それ以外の人には理解したこと、疑問点などを毎回大原に提出。										
教材 教科書 参考書	「ストレングスモデル」（田中英樹監訳） 金剛出版 5,060円 「IPS援助付雇用 精神障害者の『仕事がある人生』のサポート」（林輝男監訳） 金剛出版 4,600円										
留意点											

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10314		単位数 時間	4単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H			60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	齊藤 隆之				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 1年次のゼミ活動や各種の活動、学びを踏まえ、自ら考え、創造し実行する実践力を養っていく。そこでは社会人基礎力も当然に必要となる。全体の活動を通して、個々の学生が自分にとっての「成長」を感じ、3年次へ繋ぐ機会とする。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1,2,3,4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1,2-1,2-2,3-2,4-1に関連している										
到達 目標	STEP1: 自ら考え、新たな価値の創造ができる STEP2: チームでの自分の役割を理解し、個として、チームとして活動することの意義を理解する STEP3: 社会において活動することの意義を理解し、活動を展開できる										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	ゼミ開き チームビルディング	ガイダンス（ゼミ概要説明） 自己紹介 セールスゲーム			カフェ トーク/ 演習	第16回	Free talk Cafe	前期の振り返りと夏休みの体 験の共有			カフェ トーク
第2回	イノベーションCafé 1	コミュニティコーピングゲーム1			演習	第17回	イベントチャレ ンジ!1	地域で自分たちが貢献できる イベントを企画し、実施して いく。企画立案から実施まで の一連の活動を通して、各自 が大学生として、一人の社会 人として自分には何ができ て、何が不足しているのかに 気づいていく。			チーム活 動
第3回	イノベーションCafé 2	コミュニティコーピングゲーム2			演習	第18回	イベントチャレ ンジ!2				チーム活 動
第4回	イノベーションCafé 3	イノベーションチャレンジ1 ※日常の困りごとから			GW	第19回	イベントチャレ ンジ!3				チーム活 動
第5回	イノベーションCafé 4	イノベーションチャレンジ2			GW	第20回	イベントチャレ ンジ!4				チーム活 動
第6回	イノベーションCafé 5	イノベーションチャレンジ3			GW	第21回	イベントチャレ ンジ!5				チーム活 動
第7回	イノベーションCafé 6	イノベーションチャレンジ4			GW	第22回	イベントチャレ ンジ!6				チーム活 動
第8回	イノベーションCafé 7	イノベーションチャレンジ5 進行調整日			GW	第23回	イベントチャレ ンジ!7				チーム活 動
第9回	イノベーションCafé 8	イノベーションチャレンジ6 プレゼンテーション			GW	第24回	イベントチャレ ンジ!8				チーム活 動
第10回	イノベーションCafé 9	イノベーションチャレンジ振り返り 報告書作成			GW	第25回	イベントチャレ ンジ!9				チーム活 動
第11回	イノベーションCafé 10	イノベーションチャレンジ報告 書作成				第26回	イベントチャレ ンジ!10				イベントの振り返り
第12回	べちゃくちやCafé 1	「べちゃくちや」とは べちゃくちやCafe準備				第27回	Student Cafe1	学生企画活動1			
第13回	べちゃくちやCafé 2	べちゃくちやCafe準備				第28回	Student Cafe2	学生企画活動2			
第14回	べちゃくちやCafé 3	べちゃくちやCafe準備				第29回	Student Cafe3	学生企画活動3			
第15回	べちゃくちやCafé 4	べちゃくちやCafe			プレゼン テーショ ン	第30回	ゼミ終い	1年間の振り返り～次年度へ			カフェ トーク
授業方法 (わ ず、7対1 ブーイング等)	PBL (問題解決型 学習)	グループワーク	誘導ディスカッション	実習、フィールド ワーク							
評価 方法 及び 評価 基準	「授業への参加度30% 各活動への取り組み状況70%」をベースとして、総合的に評価します。										
課題等	必要に応じて別途指示します。										
事前事後 学修	各回ごとに事前事後学習については指示します。										
教材 教科書 参考書	特に指定しません。必要に応じて資料等を配布します。										
留意点	私のゼミでは、ゼミ生主導で学生自らが作り上げていく場面が多くあります。そのため、①自身の意見を述べようとする ことが出来る（どんなに不完全な意見でも否定しないので、自分の意見を述べようとする事が大切です。）②人任せにしない ③和を乱さないなどの、基本的な約束事を大切に出来る学生を歓迎します。また、カフェ文化を大切に、リラックスし た雰囲気を進めていきます。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10315		単位数 時間	4単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H			60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	高橋 和幸				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 学生による発表やディスカッションを中心とした主体的な活動を通して、学びと生活上の様々な問題への興味・関心を深め、専攻分野の学修への意欲と基礎的学修能力を高めるゼミ形式での授業を行う。具体的には、①厚生労働統計協会(2024)『国民の福祉と介護の動向2024/2025』から興味・関心をもった章を各自選ぶ。②その要約を行う。③要約に加えて、自身のとらえた問題と課題、具体的対策など、ディスカッションのための資料(レジメ)を作成する。④レジメをもとに発表とディスカッションを行う。⑤ディスカッションのまとめをする。という活動を繰り返すことで、課題発見力、文章力、ディスカッション能力などの向上を目指す。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している										
到達 目標	1 暮らしの中にある様々な問題に関心を寄せ、その解決のための課題と対策をまとめることができる。 2 発表レジメの作成やディスカッションを通して、課題発見力や文章力、ディスカッション能力、発想力を高めることができる。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)			備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)			備考
第1回	オリエンテーション	・演習の進め方の説明 ・グループワークの心構え、自己紹介			グループ ワーク	第16回	発表・討議(6)	・レジメの発表と問題・課題の整理と 対策の討議			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第2回	文献調査の手法の 復習	・文献調査の様々な手法、入手方法に関 する復習			ペア・グ ループ ワーク	第17回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で 見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第3回	資料収集の手法の 復習	・新聞、白書、論文、調査報告などの資料 の種類について再確認			グループ ワーク	第18回	発表・討議(7)	・レジメの発表と問題・課題の整理と 対策の討議			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第4回	インターネット検索の 功罪	・関係行政庁のホームページと論文検索 サイトの利用の仕方を再確認			Web利用、情報 リテラシー言 ひ	第19回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で 見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第5回	引用ルールの確認	・文献を引用する際のルールを再確認す る。Webを活用し討議資料を作成する。			Web利用、情報 リテラシー言 ひ	第20回	発表・討議(8)	・レジメの発表と問題・課題の整理と 対策の討議			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第6回	発表・討議(1) (教員主導で、演習 の進め方の体験)	・発表担当者の作成したレジメの 発表と問題・課題の整理と対策を 討議する			プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第21回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で 見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第7回		・前時に解決できなかった、あるいは 残された課題について、各自の学び から見出した答えを発表・討議する			プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第22回	発表・討議(9)	・レジメの発表と問題・課題の整理と 対策の討議			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第8回	発表・討議(2)	・レジメの発表と問題・課題の整 理と対策の討議			プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第23回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で 見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第9回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で見 つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第24回	年度末報告書の作成 の仕方の説明	・1年間レポートして学んだこと、得ら れた知見をまとめる報告書の書き方 についてレクチャー			グループ ワーク
第10回	発表・討議(3)	・レジメの発表と問題・課題の整 理と対策の討議			プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第25回	年度末報告書のテー マ設定	・各自どんなテーマにするか検討、追 跡調査の仕方を検討			グループ ワーク
第11回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で見 つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第26回	各自どこまで執筆して いるか中間報告	・一週間でもどこまで執筆できたか報告 しあう。			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第12回	発表・討議(4)	・レジメの発表と問題・課題の整 理と対策の討議			プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第27回	年度末報告書の発表 と討議①	・発表当番の学生が発表し、討議す る。			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第13回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で見 つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第28回	年度末報告書の発表 と討議②	・発表当番の学生が発表し、討議す る。			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第14回	発表・討議(5)	・レジメの発表と問題・課題の整 理と対策の討議			プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第29回	年度末報告書の発表 と討議③	・発表当番の学生が発表し、討議す る。			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
第15回		・各自の学びから見出した答えの発 表と討議。不足したデータをWeb検索で見 つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテ ーション・ディ スカッション	第30回	まとめ	・演習を通して学んだこと、今後の課 題等についてまとめを行う			プレゼンテ ーション・ディ スカッション
授業方法(わ てま、77分 ブ・ラング等)	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成	PBL(問題解決型 学習)							
各演習授業回におけるアクティブラーニング要素については備考欄記載のとおり。											
評価 方法 及び 評価 基準	○演習への参加状況 40% レジメの作成・発表 30% 年度末報告書 30%で評価する。 ・演習への参加状況は、主体的な授業参加の姿勢に加えて、企画力、課題発見力などを中心に評価する。 ・欠席は1回につき3点を減ずる。 ・レジメの作成・発表・年度末報告書は、課題設定の着眼点、文章構成と文章力、論理性などから評価する。										
課題等	発表担当回に使用(提出)したレジメ等は添削した後、次時間に返却する。記載内容が不十分な場合は再提出とする。										
事前事後 学修	(予習) : 時事問題に関心を持ち、最新の政策動向を各省庁の白書などから把握すること。 1回の演習授業あたり60分以上とする。 (復習) : 授業で出された課題や疑問点について、積極的に解決に努めること。図書館での文献収集あるいは インターネット検索等により調べること。復習は90分以上行うこと。										
教材 教科書 参考書	教科書 : 厚生労働統計協会(2024)『国民の福祉と介護の動向2024/2025』同協会発行(2640円) ISSN 0452-61041 その他に適宜資料 を配布する。										
留意点	○原則2回の授業(発表・討議)を1セットとして実施する。 ○資料作成・発表の担当となったときには、責任をもって資料作成を行い、ディスカッションを進行すること。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10316		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	宮田 将希				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕										
	<p>社会福祉に関する様々な課題や議題についてディスカッションを行う。 議題については教員から指定するほか、各々が興味関心のある内容についても取り上げていく。 学生自身が自分の考えをまとめ、発表（プレゼンテーション）していくプロセスを学んでいく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1及び3と関連し、カリキュラムポリシーの1と関連している。</p>										
到達 目標	社会福祉を学ぶことの意義を理解し、自身の考えを他者に伝える力を身につける。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	オリエンテーション	授業の進め方についての説明				第16回	オリエンテーション	授業スケジュールの確認			
第2回	ディスカッション グループワーク	<p>社会福祉に関する課題についてのディスカッションを行う。課題やテーマに対して自らの意見を考え、発信していく。ディスカッションを円滑に実施するために必要なコミュニケーション能力の向上を目指した演習を行う。</p>				第17回	ディスカッション グループワーク	<p>社会福祉に関する課題についてのディスカッションを行う。課題やテーマに対して自らの意見を考え、発信していく。ディスカッションを円滑に実施するために必要なコミュニケーション能力の向上を目指した演習を行う。</p>			
第3回	ディスカッション グループワーク					第18回	ディスカッション グループワーク				
第4回	ディスカッション グループワーク					第19回	ディスカッション グループワーク				
第5回	ディスカッション グループワーク					第20回	ディスカッション グループワーク				
第6回	ディスカッション グループワーク					第21回	ディスカッション グループワーク				
第7回	ディスカッション グループワーク					第22回	ディスカッション グループワーク				
第8回	ディスカッション グループワーク					第23回	ディスカッション グループワーク				
第9回	ディスカッション グループワーク					第24回	ディスカッション グループワーク				
第10回	ディスカッション グループワーク					第25回	ディスカッション グループワーク				
第11回	ディスカッション グループワーク					第26回	ディスカッション グループワーク				
第12回	ディスカッション グループワーク					第27回	ディスカッション グループワーク				
第13回	ディスカッション グループワーク					第28回	ディスカッション グループワーク				
第14回	ディスカッション グループワーク					第29回	ディスカッション グループワーク				
第15回	まとめ・成果発表				授業で取り扱った議題や課題を元に、自身でテーマを設定し、それに関する発表を行う。						
授業方法(わ てりょう、プレゼ ンテーション等)	PBL（問題解決型 学習）	グループワーク	ディベート								
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（出席・発言・発表）に応じて総合的に評価。										
課題等	適宜指示します。										
事前事後 学修	社会福祉に関連する課題について調べておく。 授業ごとに提示する教材を事前に読んでおく。										
教材 教科書 参考書	授業ごとに必要な教材は指定する。										
留意点											

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10320		単位数 時間	4単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H			60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 「マンガで学ぶ」をテーマとし、作品における具体的な場面に即して、そこで描かれる事物や心情をつかみ、単なる暗記物として社会保障や社会福祉の制度等を覚えるのではなく、人間が人間のために作った血の通ったものとして理解を深めることを目指す。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している。										
到達 目標	「事実」に向き合ったとき、何が必要不可欠なことであり、何が必ずしもそうではないかを見極める力を養う。その上で、解決に至るプロセスを見出し、利用しうる社会資格等をフル活用していけるような構想力を身につける。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	ガイダンス①	何を・どのように学んでいくか				第16回	第三の事例を読む①	概要をつかむ			
第2回	ガイダンス②	レファレンスの方法				第17回	第三の事例を読む②	論点の抽出			
第3回	第一の事例を読む①	概要をつかむ				第18回	第三の事例を読む③	論点に関する学習			
第4回	第一の事例を読む②	論点の抽出				第19回	第三の事例を読む④	事実の再構成			
第5回	第一の事例を読む③	論点に関する学習				第20回	第三の事例を読む⑤	総括			
第6回	第一の事例を読む④	事実の再構成				第21回	第四の事例を読む①	概要をつかむ			
第7回	第一の事例を読む⑤	総括				第22回	第四の事例を読む②	論点の抽出			
第8回	第二の事例を読む①	概要をつかむ				第23回	第四の事例を読む③	論点に関する学習			
第9回	第二の事例を読む②	論点の抽出				第24回	第四の事例を読む④	事実の再構成			
第10回	第二の事例を読む③	論点に関する学習				第25回	第四の事例を読む⑤	総括			
第11回	第二の事例を読む④	事実の再構成				第26回	第五の事例を読む①	概要をつかむ			
第12回	第二の事例を読む⑤	総括				第27回	第五の事例を読む②	論点の抽出			
第13回	補足①	触れられなかった論点の学習				第28回	第五の事例を読む③	論点に関する学習			
第14回	補足②	触れられなかった論点の学習				第29回	第五の事例を読む④	事実の再構成			
第15回	前期の振り返り	残された課題と展望				第30回	第五の事例を読む⑤	総括			
授業方法(わ ざり、PPT、 グループワーク等)	グループワーク										
評価 方法 及び 評価 基準	平常評価（準備・発表・討論への参加等）										
課題等	特になし										
事前 事後 学修	事前事後を問わず、参考となる文献等のレファレンスに努めること。										
教材 教科書 参考書	さいきまこ『助け合いたい』（秋田書店）ISBN978-4-253-10642-9										
留意点	社会福祉実践コース・人間科学コースのいずれを選択している学生でも履修できる。随時、ディスカッションを行う。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10311		単位数	4単位	対象	2年	開講	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H		時間	60時間	学年		学期	
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	西東 克介				授業	形態	演習	単独
授業の概要	〔授業の主旨〕 1年次に小論文の作成能力を学生自らが上げてきた能力を基に、さらにその能力を上げていくことを目標とします。1年次に私のゼミや他のゼミでどのような能力を身につけてきたかを確認し、それを基に新しいテーマか、1年次と同じテーマでさらに能力に磨きをかけていく。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している。										
到達目標	前述の能力を身につけた上で、教員が課した文章に的確に答えられる能力を身につけていきます。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	1年次に自分で身につけた文章能力についてそれぞれ語る。	自分でテーマを決める意義について述べる。				第16回	学生が夏休みの出来事を振り返る	質問や意見交換			
第2回	西東ゼミの説明	2年目の大学の講義と関連させながら、どのように文章能力を磨いていくのかを語る。				第17回	学生の発表	質問や意見交換			
第3回	学生の発表	質問や意見交換				第18回	学生の発表	質問や意見交換			
第4回	学生の発表	質問や意見交換。				第19回	週刊文春・週刊新潮の記事を読む	質問や意見交換			
第5回	西東から発表についての諸注意	諸注意に関する質問や意見を聞く。				第20回	学生の発表	質問や意見交換			
第6回	感想文とは何か	読書後と体験後の文章について、質問や意見を聞く。				第21回	民間テレビ局について	民間テレビ局について考える。			
第7回	学生の発表	質問や意見交換				第22回	NHKについて	NHKの受信料金と政治的中立性について述べる。			
第8回	学生の発表	質問や意見交換				第23回	テレビ局と番組製作会社について	番組製作会社の影響力の大きさについて、述べる。			
第9回	新聞の社説を読む	社説に関する質問や意見交換				第24回	学生の発表	質問や意見交換			
第10回	記者の意見を載せた新聞記事を読む	質問や意見交換				第25回	学生の発表	質問や意見交換			
第11回	学生の発表	質問や意見交換				第26回	雑誌（「世界」・「中央公論」・「文藝春秋」）の記事を読む。	質問や意見交換			
第12回	学生の発表	質問や意見交換				第27回	同上	同上			
第13回	（本県）地方紙の特徴	陸奥新報・東奥日報・デーリー東北について説明する。				第28回	学生の発表	質問や意見交換			
第14回	全員で前期の反省会	質問や意見交換				第29回	学生の発表	質問や意見交換			
第15回	西東からの前期のまとめ	質問や意見交換				第30回	基礎演習Ⅱの教員と学生の反省	質問や意見交換			
授業方法（ワークショップ、ブレインリング等）	学生が発表した内容で、気になることを全員で討議する。										
評価方法及び評価基準	本演習へ取り組む態度ができていれば、年度の最後に仕上げた諸論文のまとめによって成績を評価します。										
課題等	文章の気になるところなど、何でも質問して下さい。										
事前事後学修	文章の作成途中でも質問に来て下さい。										
教材教科書参考書	文章の作り方などの参考書は自分で選んで下さい。										
留意点	自らの発表内容を大切に、他学生の発表をよく聞いて参考にすること。										

科目名	社会科学研究方法			科目コード	W10001	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
				サブコード	W-BFBE1-02.H	時間	30時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	西東 克介・小山内 詩織					授業形態	講義	オムニバス
授業の概要等	〔授業の主旨〕 本講義は、社会を分析対象とする社会科学が、何を対象とし、どのような特徴を持つかということ学びます。また、社会科学における具体的な研究の方法について学びます。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1、2-2、3-2、4-2に関連している										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学の限界と可能性を実践との関係において理解します（西東）。 ・身近な事柄に社会科学を学ぶ多種多様な材料があることを理解します（西東）。 ・社会科学における研究デザインの方法について理解する（小山内）。 ・社会科学の考え方に基づいた課題研究ができるようになる（小山内）。 										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	西東・小山内による講義概要・試験等について説明。			講義の受け方、学習方法、成績に付け方、出欠の取り方などの理解。							
第2回	大学での学習とこれ以外の能力の磨き方			大学での学習能力向上には日常生活における学習以外の友人関係、サークル活動、ボランティア活動、趣味、アルバイト等で学べる能力向上へ調整してみよう。							
第3回	社会科学とは			社会科学に関する基本的知識と可能性の理解。						学生はグループに分かれ、いくつか質問を提出。	
第4回	社会科学的発想（1）			54年前の吉田拓郎のデビュー局「イメージの詩」のシから、多種多様な研究や文化的発想を可能にさせる部分を考えます。							
第5回	社会科学的発想（2）			「うわさ」についての社会科学的分析の理解と限界を吉田拓郎の歌「ひらひら」から考えます							
第6回	社会科学と公共政策論の違いと共通点			社会科学とすっかり定着した感のある公共政策論（政策科学）の違いと共通点、それらの可能性と限界についての理解。						学生はグループに分かれ、いくつか質問を提出。	
第7回	学習と学習以外で磨いた能力と社会福祉実践における共通点			社会福祉の現場での実践は、学習能力加えて、学習以外で身につけた能力が重要であることを理解。							
第8回	社会科学と価値の関係			社会科学は、価値を完全に排除することはできない。これが医学の可能性であり、限界で盛る。このことについて理解。							
第9回	社会科学研究デザイン（1）			社会調査を行うことの中で、最も重要なプロセスである研究デザインの方法について理解する。						小山内	
第10回	社会科学研究デザイン（2）			実際の研究事例を用いながら、社会学的な研究実践がどのようなものであるか理解する。						小山内	
第11回	研究課題の見つけ方			先行研究や国が提示している一次資料等から研究課題を見つける方法を理解する。						小山内	
第12回	アンケート調査			研究目的を決定し、アンケート調査項目を実際に設定することで、アンケート調査のノウハウを理解する。						小山内	
第13回	インタビュー調査			研究目的を決定し、インタビュー調査項目を実際に設定することで、インタビュー調査のノウハウを理解する。						小山内	
第14回	課題研究実践（1）			これまでに学んだことや、研究方法を用いて簡単な課題研究を行うことで、社会科学研究実践について理解する。						小山内	
第15回	課題研究実践（2）			第14回の授業で行った課題研究でわかったことを、結果と考察の部分に分けて説明できるようになる。						小山内	
授業方法(ワークショップ、プレゼンテーション等)	「うわさ」についてのグループ討議を行う。第12回と第13回はグループワーク、第15回はプレゼンテーションを行う。										
評価方法及び評価基準	(西東) レポートにより評価します。課題内容について、自らの思考が表現されていることを評価基準とします。 (小山内) レポートにより評価します。課題内容について、自らの思考が論理的に表現されているかどうかという点を評価します。(参加態度：20点、プレゼンテーション：30点、期末レポート：50点)										
課題等	(西東) 理解できたところだけでも、考える習慣を身につけよう。										
事前事後学修	授業で配布されるプリント、授業中に指示される文献等を参照して、理解を深めてください。 事後学習時間の目安：週当たり3時間程度。 (西東) 理解できないところがあれば、授業前でも質問に来て下さい。										
教材教科書参考書	(西東) 配布するレジュメや印刷した新聞記事。(小山内) 授業内で用いる資料は適宜配布します。										
留意点											

科目名	医学一般		科目コード	W21023		単位数	2単位	対象		2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-00		時間	30時間	学年			学期	
区分	共通基盤科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	相馬 信 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独		
授業の 概要等	[授業の主旨] 人体の特徴と各種疾患、特に高齢者に多い疾患を理解する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1、2-2、3-2、4-2に関連している											
到達 目標	社会的弱者たる高齢者、障害者に寄り添う姿勢を学び、実につける。											
授 業 計 画												
回	主 題			授 業 内 容						備 考		
第1回	人体の成長、老化			ライフスタイルの心身の変化を学ぶ。						講義		
第2回	身体の構造と心身機能 - ①			人体の名称、心臓、腎臓を学ぶ。						講義		
第3回	身体の構造と心身機能 - ②			呼吸、消化器、神経を学ぶ。						講義		
第4回	疾病の概要 - ①			生活習慣病、癌を学ぶ。						講義		
第5回	疾病の概要 - ②			心、脳、血管疾患を学ぶ。						講義		
第6回	疾病の概要 - ③			消化器、胃、泌尿器疾患を学ぶ。						講義		
第7回	疾病の概要 - ④			糖尿病を学ぶ。						講義		
第8回	疾病の概要 - ⑤			骨、神経疾患を学ぶ。						講義		
第9回	障害の概要 - ①			肢体不自由、視・聴覚障害を学ぶ。						講義		
第10回	障害の概要 - ②			発達、知的障害を学ぶ。						講義		
第11回	障害の概要 - ③			精神障害、認知症を学ぶ。						講義		
第12回	国際生活機能分類 (I C F)			I C F の概要を学ぶ。						講義		
第13回	リハビリテーション			リハビリテーションの適応と進歩を学ぶ。						講義		
第14回	公衆衛生			健康づくり対策						講義		
第15回	まとめとテスト			既習内容の振り返り						講義		
授業方法(わ てり、ア ブ・ラー ン等)	特になし											
評価 方法 及び 評価 基準	試験60点以上で合格とする。											
課題等	課題を指示し、レポートと質疑応答する。その後提出されたレポートは返却する。											
事前事 後学修	指定のテキストを読んでくること。講義中、指示する事項を調べる。											
教材 教科書 参考書	『新・社会福祉士養成講座 I 人体の構造と機能及び疾患』中央出版 ISBN:978-4-8058-5100-5											
留意点	授業に参加すること。授業内容はテキスト以外にもあります。											

科目名	障害者の生涯学習		科目コード	W21026	単位数	2単位	対象	1年	開講	後期
			サブコード	W-BFCB2-02	時間	30時間	学年		学期	
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	川村 泰弘				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>障害のある人々の生涯にわたる教育権・学習権は国際的なレベルでも確認されている。本授業では、障害のある人々が種々の困難を乗り越えて生涯学習の活動に参加し、また、学ぶ機会の拡大を獲得していくためには、社会がどうあればよいかをグループワークやディスカッション、「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成を通して考えていく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 5-1に関連している</p>									
到達目標	<p>1 障害のある人々の学校教育終了後の学びと社会参加の現状と課題について、ディスカッションにより理解を深める。</p> <p>2 障害のある人々の生涯にわたる学びの保障と推進・拡充のあり方について、自分の意見を述べるができる。</p> <p>3 グループ別に、先行事例を参考にしながら「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画を考え、発表する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション 生涯学習の定義と障害者と生涯学習		・学習の進め方（グループディスカッション）について説明する。 ・生涯学習の歴史と「障害者の生涯学習」に関する我が国の取り組みを配布資料及び「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議の報告」等を通して知る。						毎回の授業終了時に次時の予習シートを配布する。	
第2回	障害者権利条約と生涯学習		・教科書の「はじめに」及び「序章 障がい者権利条約と生涯学習の保障」を通読し、障がい者の学ぶ権利について意見交換する。							
第3回	生涯学習の場で学ぶ障害のある青年・成人の声を聴く		・教科書「第1章 友だちと学ぶのは楽しい」を読み、障害者自身の語る言葉を通して、障害者にとっての生涯学習の意義と必要性を理解する。							
第4回	地域・施設における青年学級の実践		・教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第1節「那賀青年学級」（和歌山）と第2節「スマイル青年」（東京）の実践を通して青年学級の役割を考える。							
第5回			・教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第3節「ハスの実の家」（福井）と第4節「われらの大学校」（滋賀、京都）の実践を通して「障害の重い人にとっての学び」と「知的障害のある人々の高等教育」について考える。							
第6回	大学におけるオープンカレッジの実践		・教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第1節「オープンカレッジ東京（東京学芸大学）」の実践を通して、大学を活用した生涯学習講座の意義とその運営の在り方を探る。							
第7回			・教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第2節「愛知県立大学におけるオープンカレッジ」の実践を通して、発達障害のある青年への生涯学習支援について考える。							
第8回	障害のある人のスポーツ活動		・教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第1節「スポーツ分野における障がいのある人の生涯学習」を読み、障害者スポーツの現状と障害があってもスポーツを学び、楽しむことのできる環境整備について考える。							
第9回	障害のある青年・成人期への性と生の学習		・教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第2節「いのち・愛・性を学ぶ障がい当事者たち」を読み、障害のある青年・成人期における性と生の学習の大切さを考える。							
第10回	すべての人々の生活・人生における学びの保障		・教科書「第5章 障がい者の社会教育、生涯教育の歩みと現状」の第1節「障がい者社会教育のとらえ方と課題」を読み、障害のある人々を含むすべての人々の生活・人生にとっての学習保障を考える。							
第11回	我が国における障がい者の社会教育・生涯学習の歴史		・教科書「第6章 歴史に学ぶ」を通して、障がい者の社会教育・生涯学習の我が国における歴史的な流れを振り返り、障害のある人々の生涯学習のこれからを考える。							
第12回	障害者の生涯学習を推進するために私たちがしなければならないこと		・学生を数グループに分け、それぞれが障害者支援グループであると想定して、「(※) 障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画案を作成する (※)はグループで自由に設定した障害名とする。							
第13回										
第14回	報告会「これからの障害者の生涯学習」		・企画・運営計画案を発表し、話し合うことにより、「障害者の生涯学習講座」の計画づくりの楽しさと難しさを味わう。							
第15回	障害のある人々の生涯学習支援		・教科書「終章 障がい者の生涯学習支援の展望と課題」の第2節「断続性と任意の『生涯学習』から権利としての生涯にわたる学び・発達支援へ」を読み、障害者の生涯学習についての各自の考えをまとめる。							
授業方法(ワ デモ、77分 ブ・ラング等)	誘導ディスカッション	グループワーク	発表、ポスター作成	資料記入	授業中のノート取り					
評価方法及び評価基準	レポート（40%）、「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成（30%）、授業への参加度（30%）									
課題等	第3回目、第5回目、第7回目、第9回目、第14回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。第12回目と第13回目の授業では、グループで「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画書を作成する。									
事前事後学修	事前：次時の範囲となる教科書の内容を確認し、予習シートを作成すること。 事後：教科書や資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材教科書参考書	教科書：田中良三・藤井克徳・藤本文朗編著（2016）『障がい者が学び続けるということ』新日本出版社 ISBN978-4406059794 そのほか、随時プリントを配布する。									
留意点	企画・運営計画案の作成は、授業時間内だけでは難しい場合もあることから、メンバー間で空き時間等を調整して主体的に進めてください。									

科目名	日本国憲法 A		科目コード	W21007	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB2-05	時間	30時間				
区分	共通基盤科目 教職科目	選択 必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 日本国憲法が規定する基本的人権の保障を学ぶ。まず、基本的人権の観念や歴史のほか基礎理論を学び、そのうえで、前期科目である「日本国憲法 A」としては、各論として、包括的基本権、自由権、社会権等へと学びを進めていく。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連する。									
到達 目標	日本国憲法が、近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、そもそも基本的人権を保障するための仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものとするを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	人権総論①			基本的人権とは						
第2回	人権総論②			基本的人権思想の歴史的展開①						
第3回	人権総論③			基本的人権思想の歴史的展開②					ディスカッション	
第4回	人権総論④			基本的人権の享有主体						
第5回	人権総論⑤			基本的人権の私人間効力						
第6回	人権総論⑥			特別の法律関係における基本的人権					ディスカッション	
第7回	人権総論⑦			基本的人権の限界と制約						
第8回	包括的基本権①			個人の尊重と幸福追求権						
第9回	包括的基本権②			幸福追求権の諸相						
第10回	包括的基本権③			法の下での平等						
第11回	包括的基本権④			家族生活と平等						
第12回	包括的基本権⑤			雇用関係と平等						
第13回	自由権①			思想及び良心の自由						
第14回	自由権②			信教の自由と政教分離					ディスカッション	
第15回	総括			まとめと振り返り					反転学習	
授業方法(わ ずのり、7対1 ブ・ラ・ンク等)	グループワーク	ディベート								
評価 方法 及び 評価 基準	学期末に行う筆記試験のみで評価する。試験の形式はいわゆる論文式とし、解答に際しては、資料の参照を許可する。他方で、評価に関しては、何よりも、出題の意図がしっかりと捉えられているか否か、そのうえで、基本的な概念や論理が適切に理解されているか否か、また、場合によっては、基礎的な概念等を現実の事例の解明に適切に応用できているか否かというように、総じて、論理性を重視した評価を行う。									
課題等	特に指定しない。									
事前 事後 学修	参考文献等を地道に参照すること。憲法等の条文をきちんと参照すること。目安：毎週3時間									
教材 教科書 参考書	特に指定しない。プリントを適宜配付する。									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるように、準備しておくこと。									

科目名	日本国憲法B		科目コード	W21008	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFC2-06	時間	30時間				
区分	共通基盤科目 教職科目	選択 必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 基本的人権Aに引き続いて、日本国憲法が規定する基本的人権の保障について学ぶ。日本国憲法Aで学んだ基礎理論を前提にしつつ、書く人権条項の内容を学ぶのに加えて、必要に応じて、裁判例などについても理解を深める									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連する。									
到達 目標	「日本国憲法A」と同様に、日本国憲法が近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、基本的人権を保障する仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものにすることを旨とする。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	自由権③		学問の自由と大学の自治							
第2回	自由権④		表現の自由①							
第3回	自由権⑤		表現の自由②							
第4回	自由権⑥		表現の自由③						ディスカッション	
第5回	自由権⑦		経済的自由権の歴史展開							
第6回	自由権⑧		財産権の保障							
第7回	自由権⑨		職業選択の自由と営業の自由							
第8回	自由権⑩		居住・移転及び国籍離脱の権利							
第9回	社会権①		自由権と社会権						ディスカッション	
第10回	社会権②		生存権①							
第11回	社会権③		生存権②						ディスカッション	
第12回	社会権④		教育を受ける権利						ディスカッション	
第13回	社会権⑤		労働基本権①						ディスカッション	
第14回	社会権⑥		労働基本権②						ディスカッション	
第15回	総括		まとめと振り返り						反転学習	
授業方法(わ くわく、7777 ブ・ラ・ンク等)	グループワーク	ディベート								
評価 方法 及び 評価 基準	学期末に行う筆記試験のみで評価する。試験の形式はいわゆる論文式とし、解答に際しては、資料の参照を許可する。他方で、評価に関しては、何よりも、出題の意図がしっかりと捉えられているか否か、そのうえで、基本的な概念や論理が適切に理解されているか否か、また、場合によっては、基礎的な概念等を現実の事例の解明に適切に応用できているか否かというように、総じて、論理性を重視した評価を行う。									
課題等	特に指定しない。									
事前 事後 学習	参考文献等を地道に参照すること。憲法等の条文をきちんと参照すること。目安：毎週3時間									
教材 教科書 参考書	特に指定しない。プリントを適宜配付する。									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるように、準備をしておくこと。									

科目名	知的障害者の心理 I		科目コード	W71002		単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-KYT02-01			30時間				
区分	共通基盤科目 教職科目(特別支援)	選択 必修	担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>知的障害の概念及び知的障害児・者の心理・病理・生理に関する基本的事項を理解し、指導・支援を検討するための知識・技能を修得することを目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連する。</p>										
到達 目標	心身の発達、心理機能の基本的理解を行い、知的障害のアセスメント方法やその課題等についても理解する。知的障害者一般についての特性を理解したうえで、個人ごとの特性に応じた具体的な指導のヒントを検討できるようになる。										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	知的障害の捉え方			障害概念と知的障害概念の変遷							
第2回	知的障害の理解			知的障害の要因となる病理面及び合併症の特徴							
第3回	知的障害の理解			知的障害に見られる心理面及び生理面の特徴							
第4回	心理アセスメント			心理アセスメントの目的と方法、検査者の資格							
第5回	多面的な理解			心理検査の種類、情報共有の在り方							
第6回	知的機能のアセスメント			知能検査の種類と特徴、ウェクスラー式、ビネー式等							
第7回	知的障害の感覚・知覚			感覚・知覚機能の基礎、感覚、知覚、認知、視知覚							
第8回	知的障害の視知覚機能			視知覚機能の特徴と指導上の配慮							
第9回	知的障害の運動機能と運動発達			運動機能の発達と運動・スポーツ、不器用さ							
第10回	運動機能の課題と指導の工夫			運動機能改善における指導の工夫							
第11回	生涯教育としての運動			日常生活場面、スポーツにおける運動機会							
第12回	知的障害と学校・学習			インクルーシブ教育、オペラント条件付け、見本合わせ法							
第13回	学習指導の工夫			課題分析、ICTの活用							
第14回	知的障害の指導における課題			レポート作成及び発表							
第15回	まとめ			理解度チェックとまとめ							
授業方法(わ ざり、フ アテン 等)	授業中のノート取り	リフレクションシ ート									
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。										
課題等	講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。										
事前事後 学修	知的障害の特徴について理解を深めるためにも、一般的な発達について学ぶこと。										
教材 教科書 参考書	参考書 小池敏英・北島善夫 著 知的障害の心理学—発達支援からの理解— 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5										
留意点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。										

科目名	病弱者の心理・生理・病理		科目コード	W71005		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
区分	共通基盤科目 教職科目(特別支援)	選択 必修	科目ナンバリング	W-KYT02-04		担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)		授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 病弱とは、慢性疾患等のために継続して医療や生活規制を必要とする状態である。原因となる病気の種類も多様である。主な病気の概要と、生活規制や行動制限のある場合の対応、そして心理的側面への配慮などについて概説する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2に関連する。</p>										
到達 目標	病弱の原因となる主な病気の概要や病弱児の心理的社会的な困難を理解し、病弱児の病気対処行動や学習上の課題等を克服・改善のための指導の在り方を考えることができる。										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション、病弱の概念			授業の内容と進め方の説明、病弱の概念							
第2回	病弱教育の捉え方			病弱教育に関する体験やイメージ							
第3回	病弱教育の変遷・教育課程			病弱教育の歴史、教育の内容、教育の方法							
第4回	病弱児の心理			病弱児の心理理解の視点							
第5回	主な病気の概要と教育支援			小児がん：白血病							
第6回	主な病気の概要と教育支援			アレルギー疾患：ぜん息							
第7回	主な病気の概要と教育支援			糖尿病							
第8回	主な病気の概要と教育支援			てんかん							
第9回	主な病気の概要と教育支援			精神性疾患							
第10回	病弱教育における情報化			病弱教育における情報化の意義と課題							
第11回	キャリア教育			キャリア教育の背景、病弱児の社会的自立とは							
第12回	病弱児と医療的ケア			重複障害児の実態把握、医療的ケア、自立活動の内容							
第13回	教育と医療・福祉等との連携			病弱児に関係する諸制度、多職種連携の在り方							
第14回	病弱児教育上の課題			課題の把握と今後の学習テーマ						発表	
第15回	まとめ			理解度チェックとまとめ							
授業方法(わ てんぽ、7774 ブ・テンゴ等)	授業中のノート取り			リフレクションシ ート							
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。										
課題等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。										
事前事後 学修	準備学習時間の目安：1日当たり30分以上。課題発表担当の場合は1回につき準備時間2時間以上。										
教材 教科書 参考書	参考書 日本育療学会編著 標準「病弱児の教育」テキスト【改訂版】 ジアース教育新社 2022 ISBN978-4863716186										
留意点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。										

科目名	社会政策論		科目コード	W21013	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB2-08	時間	30時間	学年			
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	浜田 美羽			授業	形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会で問題になっていることを解決する方法の1つが社会政策です。この講義では、現代社会において問題となっている様々な事象（具体的には各回の講義内容を参照）について、①その表象だけでなくそれが具体的にいかなる問題であるのかを理解し、②その上でその解決のためにいかなる社会政策がとられているのかを学び、③今後どうしていくべきなのか、新しい問題にどう対処していくことが必要なのかを考える授業です。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの5に関連し、カリキュラムポリシーの5-1, 5-2, 5-3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 現代の日本における社会問題の実相を理解する。</p> <p>2. 各問題解決のためにいかなる社会政策が取られているのかを理解し、社会政策とは何かを理解する。</p> <p>3. 社会においていかなる問題が生じているのか/生じうるのかを自ら考え、その解決策を考えることができるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		授業内容・進行方法を確認するとともに、社会政策の概観を示す。						講義	
第2回	「労働者」って誰のこと？		就労形態が多様化していく中でいかなる社会政策が必要となるかを考えるための前提知識として、「労働者性」の問題について学ぶ。						講義	
第3回	「労働者」じゃない働き手？		「労働者」ではない人々に労働法は適用されない。それによって生じる問題を理解し、労働者ではない就労者を守るためにどのような社会政策が展開されているのかを学ぶとともに、今後の課題について考える。						講義＋グループワーク	
第4回	法が規制している「労働時間」って？		長時間労働や、過労死、過労自殺の問題を考えるにあたって、まずは労働時間法制の基本知識を会得するためのレクチャーを行う。						講義	
第5回	長時間労働の何がいけない？その対策は		長時間労働は誰しもが知る社会問題の1つであるが、バリバリ働きたくて働く労働者もいるだろう。何が長時間労働の問題であり、その問題の解決のためにどのような社会政策が実施されているのかを学ぶ。既存の対策で十分なのか、どのような対策が必要なのかを考える。						講義＋グループワーク	
第6回	介護保険の仕組み		介護をめぐる社会問題を考える前提として、社会保険制度、特に介護保険制度についての基礎知識を会得する。						講義	
第7回	介護の需要と供給をめぐる問題		介護をめぐる問題は人不足問題、サービスの質に関する問題、老老介護問題、介護殺人等、様々な問題が生じている。かかる問題に対していかなる社会政策が取られているのかを学び、今後、これら諸問題の解決に向けていかなる政策が展開される必要があるのかを考える。						講義＋グループワーク	
第8回	生活保護の仕組み		生活保護をめぐる社会問題を考える前提として、生活保護についての基礎知識を会得する。						講義	
第9回	生活保護と高齢化社会		高齢化が進行することに伴い生じる問題を中心に生活保護をめぐる問題とそれらに対する社会政策について学修し、生活保護を今後どのようにしていくべきかを考える。						講義＋グループワーク	
第10回	職場における性平等とウェルビーイング		男女間の格差を示すジェンダーギャップ指数の世界ランキングにおいて日本は低位に評価されている。性平等の実現に向けてどのような政策が展開されているのかを学び、そのうえで、現在どのような問題が生じており、それに対してどのような対策が必要なのかを考える。						講義＋グループワーク	
第11回	子を産み育てることと社会問題		身体上の事由によって子を持つことが難しい者/カップルが受ける不妊治療/生殖補助医療の問題を考える前提として、子を産み育てることとの関係でどのような法政策がとられているのかを学ぶ。						講義	
第12回	生殖補助医療をめぐる社会政策		生殖補助医療により誕生する子の数は増加しているが、治療を受けなくても経済的事情により受けられない、また、治療を受けたことでキャリアが断絶される等の社会問題も生じている。これらに対していかなる政策がとられているのかを概観し、どのような政策が必要かを考える。						講義＋グループワーク	
第13回	社会での孤立と社会政策		ひきこもり、孤独死等、孤立をめぐる社会問題は数多く存在するものの、ここでは、元受刑者の社会復帰支援に焦点をあてて、いかなる問題があり、どのような政策が必要なのかを考える。						講義＋グループワーク	
第14回	まとめ—社会政策はどうあるべきか①		これまでの授業内容を通じ、「社会政策」が全体としていかにあるべきか、また、私たちが含むその問題・政策に関与する各アクターが何を考えるべきか、いかにあるべきかといったまとめの考察を行うために、映像教材を鑑賞する。						映像鑑賞	
第15回	まとめ—社会政策はどうあるべきか②		前回の授業内容を中心に、これまでの講義全体の総括を行う。						講義＋グループワーク	
授業方法(わすけ、アット、ブレニング等)	PBL(問題解決型学習)		グループワーク	クイズ、小テスト						
評価方法及び評価基準	<p>①講義＋グループワークの回に実施する「コメントペーパー＋小テスト」＝60%（※なお、小テストは「講義」の回の内容を元に出題するため、講義の回はサボってよいということではない）と、②最終課題40%により評価を実施します。</p>									
課題等	<p>詳細は初回に説明するが、最終課題については、指定テキスト内から指示する複数のトピックから各自で1つを選択し、①該当箇所についての要約とそこに記載されている内容について自己の見解を示すこと、②また、関連して生じる（であろう）社会問題とそれについていかなる社会政策がとられているのかについて新聞記事等を示しながら紹介し、それに対して自己の見解を示すことを求めることを予定しています。</p>									
事前事後学修	<p>「講義＋グループワーク」の回については、特にテキストの該当箇所を目を通した上で出席するようにしましょう。また、予習・復習として、社会で何が起こっているのか、どのような社会問題が生じておりそれについてどのような対応がなされているのか等々、本講義（や社会生活）に大きく関係する重要情報を日々吸収するために、「日頃慣れ親しんだネット情報」だけでなく、新聞やテレビニュース、講義内で紹介される専門雑誌等を見ようとしてください。</p>									
教材教科書参考書	<p>テキスト：増田幸弘・三輪まどか・根岸忠編著『変わる福祉社会の論点 第3版』（信山社、2021年）ISBN978-4-7972-8723-3</p> <p>その他の参考書は授業内で適宜紹介します。</p>									
留意点	<p>・テキストはグループワーク回と最終課題において必要ですので、購入するようにして下さい（講義のためだけに…というよりも各種試験や、就活において、また社会に出てからも役立つ書籍だと思いますのでおすすめです）。</p> <p>・授業内容は社会状況等により順番が前後したり、内容を差し替えたりすることもあります。変更の際は授業内で早めに予告します。</p> <p>・また、当たり前のことですが、遅刻や途中退室、講義中の私語・スマホの使用、無断の撮影・録音等、他の受講者の迷惑となる行為は厳禁です。レポート等での不正行為には厳正に対処します。</p>									

科目名	行政法 A		科目コード	W21015		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB2-09							
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	堀内 健志				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>行政法の基本特徴や意義・今日的課題などを諸学問との相違や関連に留意して、概括的に学びます。行政法総論です。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2に関連する。</p>										
到達目標	<p>行政法を初めて学ぶ学生が、基礎知識をしっかりと理解できるようになることを目標とします。さらには、学生がこれらを用いて、行政法の体系的な構造を理解でき、重要な論点を考えることができるようになることを到達目標としています。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス			行政法とは、どのような法であり、それをどのように学ぶのかについて、学ぶ。毎回3時間程度の予習・復習を心がけること。						講義	
第2回	行政法の基礎理論、「行政法」の性格			憲法は変化していくが、行政法は存続する。が、戦後、大陸型に英米型の行政法が混在することになった。「法律による行政の原理」と「法の支配」論						講義	
第3回	「行政法」の構造			「行政法基礎理論」「内部行政法」「外部行政法」						講義	
第4回	「行政法」の基本的諸問題			公法と私法、特別権力関係論、自由裁量、行政法の公定力						講義	
第5回	「行政法」の基本的諸問題			瑕疵ある行政行為の取消と無効、委任立法の限界、行政秩序罰						講義	
第6回	「行政法」の基本的諸問題			行政代執行、統治行為、抗告訴訟、訴えの利益						講義	
第7回	「行政法」の基本的諸問題			行政指導、集団訴訟と行政手続、官僚制と公務員の資質						講義	
第8回	「行政」概念			行政の控除説						講義	
第9回	「行政」概念			新しい行政概念構築の試みは成功していない。						講義	
第10回	「行政」概念			行政の任務の諸分野						講義	
第11回	「法律による行政の原理」とその現代国家的変容			O・マイヤーの伝統的「法律の支配」論						講義	
第12回	「法律による行政の原理」とその現代国家的変容			現代国家的変容と本質性理論の評価、及びわが国の現状						講義	
第13回	「公法と私法」			伝統学説と国家任務の増大・変質、今日の学説の状況						講義	
第14回	「行政法源」			行政法の成文法主義、不文法源の可否論議の吟味						講義	
第15回	まとめ			現代における行政法の日常性の再確認						講義	
授業方法(わく、デモ、PPT、グループワーク等)	特になし										
評価方法及び評価基準	定期試験評価80パーセント、平常点評価20パーセントとして評価します。到達目標に対応して、基本概念や語句の理解を前提に、現実社会に対する洞察力を試す問題を出します。答案の構成や論理性を重点的に評価します。										
課題等	講義内容についての質問などは、常時歓迎します。										
事前事後学修	1講義につき、3時間程度の予習・復習がのぞまれます。										
教材教科書参考書	教科書は使わないが、参考書として、堀内健志『公法2新版行政法』（信山社）ISBN4-434-06500-9、藤田宙靖『行政法入門第7版』（有斐閣）ISBN978-4-641-13195-8、及びポケット六法（有斐閣）ISBN978-4-641-00918-9										
留意点	講義では、学説、判例などについて、最新の内容で展開しますので、是非講義内容に注目し、ノートを充分に活用することが有効でしょう。										

科目名	行政法B		科目コード	W21016		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB2-10							
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	堀内 健志				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 行政法の基本特徴や意義・今日的課題などを諸学問との相違や関連に留意して、概括的に学びます。行政組織法、行政救済法・概観です。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2に関連する。</p>										
到達目標	<p>学生が公務員試験や各種資格試験などに十分対応できるようになることを目標としています。また、学生が行政組織法、公務員法、行政仮定法、行政作用法などについて体系的に理解できるようになることを目指しています。改正行政不服審査法や改正行政事件訴訟法などにも対応しています。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	内部行政法		ガイダンス、毎回3時間程度の予習と復習をすることがのぞまれます。						講義		
第2回	「行政法」規範の分類		行政法を学ぶ上で、まずは、行態法と組織法、および内部法と外部法の区別をすることが便利である。						講義		
第3回	「行政組織法」		国家・国家機関・国家公務員の概念的な区別を理解する。						講義		
第4回	「国の組織」		行政主体として、国家、地方公共団体、公共組合、公社・公団						講義		
第5回	「行政機関」		内 閣、内閣府、省・庁・委員会、地方支分局、行政機関の概念、行政庁とその他の機関、権限の委任と代理、指揮監督、協議、調整						講義		
第6回	「地方自治・分権」		憲法上の地方自治と分権、平成の「国のかたち」の改革法の解説、機関としての町村総会・議会・長・委員会・委員、直接参政						講義		
第7回	「公務員法」		公務員の意義、権利・義務						講義		
第8回	外部行政法、個人的公権		国家に対して市民はどのようにして対抗するのか。国家・国民の法的関係。個人的公権の分類・体系、反射的利益、私人の公法行為						講義		
第9回	「行政過程法」		行政の全プロセスをダイナミックに捉える。行政処分を中心に事前と事後に分けて展開します。						講義		
第10回	「行政救済法・概観」「行政争訟」		事後救済としての処分を取り消すなどの不服申立と行政訴訟。改正行政不服審査法と改正行政事件訴訟法を解説します。						講義		
第11回	「国家補償」		損失補償と国家賠償の制度、及びこれらの狭間にあるワクチン禍、戦争責任などの諸問題をどのように救済するかを検討します。						講義		
第12回	「行政手続法」（情報公開法、個人情報保護法を含む）		事前手続としての行政手続法の検討、そして情報公開と個人情報保護の現状。						講義		
第13回	「行政作用法」「行政立法」		伝統的行政法学の中心であった行政作用法を概観します。						講義		
第14回	「行政行為」「行政指導」		「行政行為」「行政指導」などの概念・性格を学びます。						講義		
第15回	まとめ		行政法はまことに今日市民として不可欠、必須の法分野であることを確認します。						講義		
授業方法(わかりやすい授業等)	特になし										
評価方法及び評価基準	定期試験評価80パーセント、平常点20パーセントとして評価します。到達目標に対して、基本概念や語句の理解を前提に、現実社会に対する洞察力を試す問題を出します。答案の構成や論理性を重点的に評価します。										
課題等	講義内容についての質問などは、常時歓迎します。										
事前事後学修	1講義につき、3時間程度の予習・復習がのぞまれます。										
教材教科書参考書	教科書は使わないが参考書として、堀内健志『公法2新版行政法』（信山社）ISBN4-434-06500-9、藤田宙靖『行政法入門第7版』（有斐閣）ISBN978-4-641-13195-8、及びポケット六法（有斐閣）ISBN978-4-641-00918-9を指定します。										
留意点	講義では、学説、判例などについて、最新の内容で展開しますので、是非講義内容に注目し、ノートを十分に活用することが有効でしょう。										

科目名	権利擁護と成年後見		科目コード	W21030	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB2-11	時間	30時間				
区分	共通基盤科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	吉村 顕真			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 〔授業の主旨〕 講義を通じて次の5つの項目の理解を促す。 ①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える法（民法を中心とする）の知識を理解する。 ②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 ③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要なものに対する権利擁護活動の実際について理解する。 ④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。 ⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える法（民法を中心とする）の知識を理解することができる。 ②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解することができる。 ③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要なものに対する権利擁護活動の実際について理解することができる。 ④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解することができる。 ⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション、憲法概説		授業の概要、憲法総論、基本的人権							
第2回	民法・親族法①		家族法序説、氏と戸籍、家事事件手続法							
第3回	民法・親族法②		夫婦関係：婚姻の成立と効果							
第4回	民法・親族法③		夫婦関係：離婚の成立と効果							
第5回	民法・親族法④		親子関係：実親子関係の成立							
第6回	民法・親族法⑤		親子関係：養親子関係の成立 (普通養子と特別養子、里親制度も含める)							
第7回	民法・親族法⑥		親子関係：生殖補助医療による新たな親子関係							
第8回	民法・親族法⑦		親子関係：親権、養育費、子の引き渡しなど (児童虐待防止法も含める)							
第9回	成年後見制度①		成年後見制度の沿革及び現況など							
第10回	成年後見制度②		成年後見制度の具体的内容							
第11回	成年後見制度③		任意後見制度の概要							
第12回	成年後見制度④、扶養		日常生活自立支援事業、障害法、高齢者法							
第13回	民法・相続法①		相続人、相続分、相続財産							
第14回	民法・相続法②		遺産分割							
第15回	民法・相続法③		遺言、遺留分							
授業方法 (女子、男子、外国 留学生等)	クイズ、小テスト	理解度チェック								
評価 方法 及び 評価 基準	期末試験50%、平常点（リアクションペーパーを含む）40%、レポート10%									
課題等	適宜、指示する。									
事前事後 学修	授業後に復習のポイント及び次回の授業までに読むべき教科書の範囲について述べる。									
教材 教科書 参考書	初回の授業までに指示する。									
留意点										

科目名	社会福祉学特講E (コンソーシアム)		科目コード	W21060		単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-BFCB0-05		時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	(コンソーシアム)				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 本授業は、大学コンソーシアム学都ひろさきの「共通授業」として開講されるもので、弘前市内の大学生が集まり、自分たちの住む地域の様々な課題を学び、課題解決に向けて話し合う。予定されている大きなテーマは次の3つ。 ①地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～、②子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性、③地域共生社会と福祉的課題について 授業では、1日1課題(テーマ)について担当教員、弘前市職員、民間企業社員から、地域の様々な課題についてオムニバス形式で授業を実施し、その解決策についてのグループディスカッション、グループワーク等を行い発表する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1,2,5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1,2-1,2-2,5-1に関連する。										
	到達 目標	① 地域の状況を具体的に理解できるようになる ② 地域の課題解決のために、学生ができることは何かを考えることができるようになる ③ 各テーマに対して、自分の考えを述べるができるようになる									
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～①			生活習慣病総論・各論							
第2回	地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～②			生活習慣病と慢性腎臓病							
第3回	地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～③			生活習慣病から超高齢社会を考える:健康寿命を伸ばすためにできること							
第4回	地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～④			生活習慣病の治療支援							
第5回	地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～⑤			学校教育からの生活習慣病対策							
第6回	子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性①			子どもを取り巻く環境の変化と子育て支							
第7回	子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性②			弘前市駅前子どもの広場と弘前市子ども家庭センターの取組み							
第8回	子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性③			子どもにとっての「遊び」、木との関わりを通して育まれるもの							
第9回	子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性④			フィールドワーク、グループワーク、ポスター作成							
第10回	子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性⑤			発表、講評							
第11回	地域共生社会と福祉的課題①			地域共生社会の実現とは							
第12回	地域共生社会と福祉的課題②			福祉的課題を抱え生活する人							
第13回	地域共生社会と福祉的課題③			地域共生社会の事例							
第14回	地域共生社会と福祉的課題④			グループディスカッション							
第15回	地域共生社会と福祉的課題⑤			発表、質疑							
授業方法(ワークショップ等)	グループワーク	PBL(問題解決型学習)	発表、ポスター作成								
評価方法及び評価基準	期末評価(最終レポート):100%										
課題等	各日に課せられる課題と最終レポート										
事前事後学修	各テーマに関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。 準備学習時間の目安:1日あたり30分以上。										
教材教科書参考書	特に指定しない。必要に応じて資料などを配布する。										
留意点	普段から「広報ひろさき」などにも目を通し、地域においてどのようなことが行われているのか、関心を持つようにすること。授業内容が変更になる可能性があるため変更があった場合は適宜連絡を行う。										

科目名	社会福祉学特講A (子ども・家庭・社会)		科目コード	W21056	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-06	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	川村 泰弘			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 子ども、家庭、社会の現状と課題を取り上げ、子どもの福祉に関する基礎的理解を図るとともに、養護の必要な子どもや児童虐待、不登校、いじめなど、特別な支援を必要とする子どもについての理解と支援のあり方を考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 5-1に関連する。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもに関する様々な条約等の「子ども観」に触れながら、「子どもの人権」について説明することができる。 2 子どもの成長に及ぼす「あそび」や「映像メディア」の影響について説明することができる。 3 子育てに果たす家庭や保育所、幼稚園、地域社会の現状と役割について説明することができる。 4 特別な支援を必要とする子どもたちの概況と支援について自分の考えを述べることができる。 5 家庭支援に関するソーシャルワークや家庭療法の概要を説明することができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	子どもの発見と子どもの権利		大人社会における子どもの存在をどう捉えるかという子ども観の変遷と社会の動きについて学ぶ。							
第2回			児童憲章や子どもの権利条約をはじめとする「子ども」の基本的な権利保障について学ぶ。							
第3回	外遊びや自然遊びと子どもの発達		集中力や発想力、自己肯定感、コミュニケーション力など、子どもの成長に必要な諸能力の育成に影響を及ぼす外遊びや自然体験活動について学ぶ。							
第4回	電子メディアが及ぼす子どもへの影響		電子メディアへの接触が、健全な愛着行動の獲得に果たす親子の相互作用をはじめとする成長と発達に必要な時間を奪っていることを認識し、その対応策を考える。							
第5回	地域社会と子ども		子どもの成長、発達のもととして大きな役割を果たしてきた地域社会の育児機能が低下していることを踏まえ、家庭の子育てを支える地域社会のあり方を考える。							
第6回	家庭、家族と子ども		児童福祉において家庭支援が強調される背景と現代社会における家族状況について学ぶ。							
第7回	保育所、認定こども園と学童保育		乳幼児期や学童期の子どもとその家族を支える保育所や認定こども園と、いわゆる学童保育の現状と課題について学ぶ。							
第8回	特別な支援を必要とする子どもの理解		いじめ、不登校、児童虐待の概況と支援の現状について学ぶ。							
第9回			社会的養護の場で生活している子どもたちの存在と、そのような場である「家庭養護」や「施設養護」の現状と課題について学ぶ。							
第10回			非行の概況と非行少年に対する社会的対応につて、概況と課題を学ぶ。							
第11回			母子家庭、父子家庭といったひとり親家庭の概況とその支援並びに母子保護施策の現状と課題を学ぶ。							
第12回	子ども福祉関連法、制度と関連機関		子ども福祉関連法、制度の概要と関連機関、施設の主な役割と活動を理解するとともに、児童福祉に関わる職員の倫理について考える。							
第13回	福祉的アプローチ		社会的資源を活かして、問題を抱える家族に対する支援を行うソーシャルワーク的なアプローチを学ぶ。							
第14回	心理的アプローチ		円環的因果律とシステム論からクライアントの問題を考える家族療法を学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめを行う。							
授業方法(わく、アソビ、アソビ、アソビ等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り					
評価方法及び評価基準	レポート(40%)、試験(30%)、授業への参加度(30%)									
課題等	第4回目、第7回目、第11回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。									
事前事後学修	事前：次回の授業内容のポイント、キーワード等を提示するので、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。									
留意点	授業内容に関連する報道等に関心を持ち、事象に対する自分の考えを述べるできるように学びを深めてください。									

科目名	社会福祉学特講B (障害と発達)		科目コード	W21057	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-07	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	川村 泰弘				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 国際生活機能分類による障害のとりえ方、「障害者」の法的定義、生涯発達の視点に立った代表的な発達理論、認知・社会性の発達等に関する基礎知識、障害理解と基本的ななかわり方等について、講義形式による学びを深め、福祉実践力の基礎を養う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 5-1に関連する。									
	到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 WHOの国際生活機能分類（ICF）の考え方について説明することができる。 2 我が国における障害者の法的定義について、主な法律ごとに整理し、表にまとめることができる。 3 発達の概念、発達段階などの発達の基本概念と主要な発達理論を理解し、その要点をまとめることができる。 4 身体障害者福祉法等で規定される障害について、「発達」との関連を踏まえてその障害特性と基本的な支援のあり方を説明することができる。 								
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	「障害がある」ということ		学習内容、学習の進め方等について説明する。 I C F（国際生活機能分類）における障害のとりえ方を理解する。						オンデマンド授業	
第2回	法律による障害者の定義		我が国の障害者に係る主な法律による障害者の定義を知る。							
第3回	障害者福祉の基本理念		障害者福祉の基本理念となるノーマライゼーションとインクルージョンの成立過程と基本的な考え方を理解する。							
第4回	生涯発達の視点と発達課題		発達の概念の基本的事項、発達のとりえ方、発達に影響を及ぼす要因などを理解する。							
第5回			乳幼児期から青年期の発達段階と発達課題の概要を知る。							
第6回	知性・認知の発達の基礎知識		ピアジェの認知発達理論の基本的事項を理解する。 言語機能の発達と言語獲得理論の概要を学ぶ。							
第7回	社会性の発達の基礎知識		愛着や道徳性の発達、向社会的報道の発達の概要を理解する。							
第8回	記憶と知能の基礎知識		記憶の仕組みと機能、メタ認知と記憶方略の基礎を理解する。 知能の概念と定着、知能の測定と評価の基礎を知る。							
第9回	障害の理解と基本的な支援のあり方		視覚障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
第10回			聴覚障害・言語障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
第11回			肢体不自由の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
第12回			内部障害（心臓・呼吸器・腎臓・直腸機能・小腸・H I Vによる免疫障害・肝臓機能）の特徴の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
第13回			知的障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
第14回			精神障害、高次脳機能障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
第15回			発達障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。							
授業方法(オンデマンド、ライブ授業等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り					
	第1回目の授業はオンデマンドで行う。講義4回目開始までの間にオンラインで学習し、講義内容をレポートにまとめて提出する。									
評価方法及び評価基準	レポート（40%）、試験（30%）、授業への参加度（30%）									
課題等	第3回目、第8回目、第13回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。									
事前事後学修	事前：次回の授業内容のポイント、キーワード等を提示するので、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。 参考書：内藤佳津雄・北村世都・市川優一郎編（2016）「Next 教科書シリーズ 発達と学習」弘文堂 ISBN:978-4335002441									
留意点	紹介する参考図書を積極的に購読し、「発達」「障害」への関心を深めてください。									

科目名	社会福祉学特講C (老化と生体)		科目コード	W21058	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-08	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	田中 真実				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>体の基本構造を学ぶ。iPS細胞の研究を学ぶ。ヒトの体の様々な機能が加齢によって変化することを学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 5-1に関連する。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのからだの加齢現象を学ぶことができる。 ・ヒトのからだの生理機能を学ぶことができる。 ・上手に老いることの必要性を学ぶことができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	体のしくみ 1		ガイダンス、細胞と組織の概要 (WEBを視聴し理解を深める)							
第2回	体のしくみ 2		消化吸収 (WEBを視聴し理解を深める)							
第3回	iPS細胞の研究 1		iPS細胞について、「爆笑問題の山中教授とめぐる京都大学 iPS細胞研究所」(DVD視聴)							
第4回	iPS細胞の研究 2		冠攣縮性狭心症患者由来iPS細胞を用いた病態の解明(弘前大学医学研究科で行っている研究)、「夢の扉+」iPS細胞で最先端治療 ミニ肝臓 (DVD)							
第5回	老化と寿命のしくみ 1		日本人の寿命 (WEBを視聴し理解を深める)							
第6回	老化と寿命のしくみ 2		老化のナゾを解くための基礎知識 (WEBを視聴し理解を深める)							
第7回	老化と寿命のしくみ 3		細胞は生命の「回数券」をもっている (WEBを視聴し理解を深める)							
第8回	老化と寿命のしくみ 4		活性酸素のによる傷が老化をひきおこす、水素と酸化ストレス (WEBを視聴し理解を深める)							
第9回	老化と寿命のしくみ 5		コラーゲンと老化の深い関係 (WEBを視聴し理解を深める)							
第10回	老化と寿命のしくみ 6		個体の寿命を支配するものは何か、老化抑制のカギを握る「オートファジー」 (WEBを視聴し理解を深める)							
第11回	老化と寿命のしくみ 7		いろいろな器官の老化とその対策① (WEBを視聴し理解を深める)							
第12回	老化と寿命のしくみ 8		いろいろな器官の老化とその対策② (WEBを視聴し理解を深める)							
第13回	老化と寿命のしくみ 9		老化を早めないライフスタイル① (WEBを視聴し理解を深める)							
第14回	老化と寿命のしくみ 10		老化を早めないライフスタイル② (WEBを視聴し理解を深める)							
第15回	老化と寿命のしくみ 11		まとめ、課題レポート							
授業方法(ウェブ、アプリ、ブレンド等)	ジグソー・リーディング									
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席につき、課題レポートによる評価 (100%)。60%(60点)以上を合格とします。到達目標をどの程度達成されているのかをみる。									
課題等	レポート課題はTeamsで提出する。									
事前事後学修	事前学修 (60分) : 講義概要および授業全体の流れを確認しておく、事後学修 : 週当たり3時間、授業の内容を振り返り、学修ポイントを復習する。									
教材教科書参考書	講義時に必要なプリントを配布します。									
留意点	普段から老化と寿命について興味をもち、インターネットや雑誌の健康および生活欄を見ること。									

科目名	社会福祉学特講D (現代の生活問題)		科目コード	W21059	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-09	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 主として「公的扶助論」の学修を補う目的のもので、普段何気なく過ごしている「生活」を巡る様々な問題を、様々な角度から取り上げ、理解を深める。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 5-1に関連する。									
到達 目標	「生活」を巡る諸問題を構造的に把握、理解し、社会福祉の制度や実践が果たす役割や限界の理解に繋ぐことを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	導入①		現代の「生活」問題～「生活」に焦点を当てる意義							
第2回	導入②		「現代」の生活問題～「現代」に焦点を当てる意義							
第3回	テーマ1：貧困問題①		見える貧困・見えない貧困							
第4回	テーマ1：貧困問題②		貧困論の系譜①～ブース、ラントリー							
第5回	テーマ1：貧困問題③		貧困論の系譜②P・タウンゼント							
第6回	テーマ1：貧困問題④		貧困論の系譜③～「相対的貧困」論							
第7回	テーマ1：貧困問題⑤		貧困論の系譜④～A・セン、ヌスパウム							
第8回	テーマ2：生活保護法制①		生活保護法の基本原理①							
第9回	テーマ2：生活保護法制②		生活保護法の基本連理②							
第10回	テーマ2：生活保護法制③		生活保護の実施原則①							
第11回	テーマ2：生活保護法制④		生活保護の実施原則②							
第12回	テーマ2：生活保護法制⑤		生活保護法所定の扶助①							
第13回	テーマ2：生活保護法制⑥		生活保護法所定の扶助②							
第14回	テーマ2：生活保護法制⑦		権利救済							
第15回	総括		まとめと振り返り							
授業方法(わ てり、ア ンゲ等)	グループワーク	ディベート								
評価 方法 及び 評価 基準	試験のみで評価する。									
課題等	特になし。									
事前 事後 学修	特に事後学修に関して、指示された文献等の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	特になし。									
留意点	しっかりした問題意識を持たないと、履修は難しいだろう。随時、グループワークやディスカッションを行う。									

科目名	大学生のための ソーシャルスキル		科目コード	W21022	単位数	2単位	対象	1年	開講	前期	
			科目ナンバリング	W-BFCB2-14	時間	30時間	学年		学期		
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	松本 郁代・()				授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ソーシャルスキルを定義したうえで、社会の中で生きていく際に必要とされる問題解決方法や対処の仕方について講義する。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 4-1, 5-3に関連している。										
到達 目標	社会性を身につけた、当たり前の大人になること。										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容					備 考		
第1回	ソーシャルスキルとは何か			講義計画、ソーシャルスキルの定義							
第2回	ソーシャルスキルの基礎知識			ソーシャルスキルと対人関係、大学生活における対人関係							
第3回	7つの基本的なソーシャルスキル			ノンバーバルコミュニケーションとは							
第4回	真似したいノンバーバルな要素			ノンバーバルコミュニケーション攻略法					パーソナル・スペースの測定		
第5回	真似したくないコミュニケーション			コミュニケーション禁句集							
第6回	良い話相手になる為のスキル			自慢話だけではないコミュニケーション							
第7回	良い聴き手になる為のスキル			聞くだけではないコミュニケーション							
第8回	つまづいた時のソーシャルスキル			人間関係に悩む時、友人からのサポートを受けたい時							
第9回	リアクションは、社会人の第一歩			教職員とのコミュニケーションの注意点							
第10回	報告は、社会人の基本			講義受講のマナーと相談後のデューティー							
第11回	挨拶が出来ますか			研究室を訪れる時のマナー							
第12回	ハラスメントの基礎知識			学生から教員へのハラスメント？							
第13回	危険回避のためのソーシャルスキル			不当請求・架空請求・不法侵入の危険回避							
第14回	情報リテラシーのためのスキル			インターネット・コミュニケーションにおけるソーシャルスキル							
第15回	社会人になるためのソーシャルスキル			面接のテクニックだけで就職できるのか？							
授業方法(わすれが、アソシエーション)	小テスト										
評価 方法 及び 評価 基準	各講義における小テスト（短答式・客観式）を積み上げて、評価する。										
課題等	それぞれの時間に指示をする。										
事前事後学修	指示した持参物の準備をすること。										
教材 教科書 参考書	橋本 剛（2008）『ライブラリー ソーシャルスキルを身につける 5——大学生のためのソーシャルスキル』 ISBN:978-4-7819-1183-0										
留意点	私語・遅刻厳禁。講義に出席する学生として、この二つは最低限のルール。新任教員担当部分については、6月頃に予定しているが、詳細は講義中に知らせる。										

科目名	英語 I A		科目コード	W24010	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-15.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	奥野 忠徳			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 簡単な表現を用いて日常生活を英語で表現する訓練を徹底的に行います。 会話で必要となる文法力と語彙力を徹底的にトレーニングで鍛えます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	場面に即した内容を英語で即座に話せるようになる技術を身につけます。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	introduction		この授業で行うことへの導入							
第2回	使える文法・英語特訓 (1)		現在進行形、英文の特訓(1)							
第3回	使える文法・英語特訓 (2)		現在単純形、英文の特訓(2)							
第4回	使える文法・英語特訓 (3)		現在進行形と単純形を使い分ける、英文の特訓(3)							
第5回	使える文法・英語特訓 (4)		過去単純形、英文の特訓(4)							
第6回	使える文法・英語特訓 (5)		過去進行形、英文の特訓(5)							
第7回	使える文法・英語特訓 (6)		現在完了形(1)、英文の特訓(6)							
第8回	使える文法・英語特訓 (7)		現在完了形(2)、英文の特訓(7)							
第9回	使える文法・英語特訓 (8)		現在完了形(3)、英文の特訓(8)							
第10回	使える文法・英語特訓 (9)		現在完了進行形、英文の特訓(9)							
第11回	使える文法・英語特訓 (10)		haveとhave got、英文の特訓(10)							
第12回	使える文法・英語特訓 (11)		used to構文、英文の特訓(11)							
第13回	使える文法・英語特訓 (12)		進行形の未来用法(1)、英文の特訓(12)							
第14回	使える文法・英語特訓 (13)		進行形の未来用法(2)、英文の特訓(13)							
第15回	使える文法・英語特訓 (14)		be going toと進行形の未来用法の使い分け、英文の特訓(14)							
授業方法(わ すらい、ア ブ・ラ ブ・ラ ブ)	授業中のノート取り									
評価 方法 及び 評価 基準	毎週行うトレーニングの成果(60点)、期末試験(40点)で評価します。 簡単な英語での会話が正しい発音でできるかどうかを重点的に評価します。									
課題等	特にありません。									
事前事後 学修	事前に当日の文法事項を予習しておくこと。事後は授業で行った課題をさらにトレーニングしておくこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は使用しません。									
留意点	英語の徹底的なトレーニングなので、欠席はしないようにしてください。90分間一切気を抜くことはできません。									

科目名	英語 I B		科目コード	W24011	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目ナバリング		W-BFCB0-16.S	時間	30時間					
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	奥野 忠徳				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 簡単な表現を用いて日常生活を英語で表現する訓練を徹底的に行います。 会話が必要となる文法力と語彙力を徹底的にトレーニングで鍛えます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	場面に即した内容を英語で即座に話せるようになる技術を身につけます。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	introduction		導入、willとshall(1)、英文の特訓(1)							
第2回	使える文法・英語特訓(1)		willとshall(2)、英文の特訓(2)							
第3回	使える文法・英語特訓(2)		willとbe going toの使い分け、英文の特訓(3)							
第4回	使える文法・英語特訓(3)		英語の未来表現の総復習(1)、英文の特訓(4)							
第5回	使える文法・英語特訓(4)		英語の未来表現の総復習(2)、英文の特訓(5)							
第6回	使える文法・英語特訓(5)		ifとwhen(1)、英文の特訓(6)							
第7回	使える文法・英語特訓(6)		ifとwhen(2)、英文の特訓(7)							
第8回	使える文法・英語特訓(7)		can(1)、英文の特訓(8)							
第9回	使える文法・英語特訓(8)		can(2)、英文の特訓(9)							
第10回	使える文法・英語特訓(9)		mustとmay(1)、英文の特訓(10)							
第11回	使える文法・英語特訓(10)		mustとmay(2)、英文の特訓(11)							
第12回	使える文法・英語特訓(11)		have toとmustの使い分け、英文の特訓(12)							
第13回	使える文法・英語特訓(12)		should(1)、英文の特訓(13)							
第14回	使える文法・英語特訓(13)		should(2)、英文の特訓(14)							
第15回	使える文法・英語特訓(14)		should(3)、英文の特訓(15)							
授業方法 (オ ン ラ イ ブ ・ ラ ウ ン グ 等)	授業中のノート取り									
評価 方法 及び 評価 基準	毎週行うトレーニングの成果(60点)、期末試験(40点)で評価します。 簡単な英語での会話が正しい発音でできるかどうかを重点的に評価します。									
課題等	特にありません。									
事前事後 学修	事前に当日の文法事項を予習しておくこと。事後は授業で行った課題をさらにトレーニングしておくこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は使用しません。									
留意点	英語の徹底的なトレーニングなので、欠席はしないようにしてください。90分間一切気を抜くことはできません。									

科目名	英語 I C		科目コード	W24012	単位数	1単位	対象	1年	開講	前期
			科目ナバリング	W-BFCB0-17.S	時間	30時間	学年		学期	
区分	共通基盤科目	選択必修	担当者名	澤田 真一				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>英語で読む、書く、聞く、話すことを通じて、自己表現の方法を学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達目標	英語を好きになる。英語の構造に注意を払いながら、正しく読めるようになる。英語を使って自己表現ができるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	導入			イントロダクション						
第2回	ディスカッション			なぜ英語を勉強するのか						
第3回	コミュニケーション1			自己表現						
第4回	コミュニケーション2			自己表現						
第5回	ライティング1			英語で詩を書く						
第6回	ライティング2			詩の鑑賞・説明						
第7回	ビデオ			鑑賞						
第8回	ディスカッション			スクリプトの読解						
第9回	コミュニケーション3			写真を用いた家族の紹介						
第10回	リーディング1			ノン・フィクション						
第11回	リーディング2			ノン・フィクション						
第12回	リーディング3			ノン・フィクション						
第13回	スピーチ1			英語での弁論						
第14回	スピーチ2			英語での弁論						
第15回	試験			まとめと試験						
授業方法(女子フォド、フイン、アークン等)	グループワーク	ペアワーク	ディベート							
評価方法及び評価基準	言語活動20%、パーティシペーション・ポイント20%、期末試験60% 到達目標に照らし合わせ、自発的に正しい英語で自己表現ができてくるかを重視します。試験では、講義で扱った教材についての文法・読解問題と、自分の考えを述べるエッセー問題を出します。									
課題等	課題等は次時間に返却しますが、不十分な場合は再提出とします。授業で事前に配布するプリントは必ず読んでから参加してもらいます。準備学習時間の目安：1日当たり30分程度。									
教材教科書参考書	授業時にプリントを配布します。									
留意点	何よりも学生の自主性を重視します。									

科目名	英語 I D		科目コード	W24013	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目名(バリエーション)	W-BFCB0-18.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	澤田 真一				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 英語で読む、書く、聞く、話すことを通じて、自己表現の方法を学びます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
	到達 目標	英語を好きになる。英語の構造に注意を払いながら、正しく読めるようになる。英語を使って自己表現ができるようになる。								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	導入			イントロダクション						
第2回	コミュニケーション1			対話の仕方						
第3回	コミュニケーション2			対話の仕方						
第4回	ライティング1			英語で物語を書く						
第5回	ライティング2			エディティング						
第6回	ライティング3			物語の鑑賞・説明						
第7回	ビデオ			鑑賞						
第8回	ディスカッション			スクリプトの読解						
第9回	コミュニケーション3			本の紹介						
第10回	リーディング1			フィクション						
第11回	リーディング2			フィクション						
第12回	リーディング3			フィクション						
第13回	スピーチ1			英語での弁論						
第14回	スピーチ2			英語での弁論						
第15回	試験			まとめと試験						
授業方法(わ ず、わ、わ、 ア・ケン等)	グループワーク	ペアワーク	ディベート							
評価 方法 及び 評価 基準	言語活動20%、パーティシペーション・ポイント20%、期末試験60% 到達目標に照らし合わせ、自発的に正しい英語で自己表現ができているかを重視します。試験では、講義で扱った教材についての文法・読解問題と、自分の考えを述べるエッセー問題を出します。									
課題等	課題等は次時間に返却しますが、不十分な場合は再提出とします。									
事前事後 学修	授業で事前に配布するプリントは必ず読んでから参加してもらいます。準備学習時間の目安：1日当たり30分程度。授業時にプリントを配布します。									
教材 教科書 参考書										
留意点	何よりも学生の自主性を重視します。									

科目名	ドイツ語A		科目コード	W24014	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナバリング	W-BFCB0-19.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ドイツ語圏の文化を知り、ドイツ語でコミュニケーションする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>① ドイツ語で挨拶ができる。</p> <p>② ドイツ語で自己紹介や簡単なコミュニケーションができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	0課 発音の基礎(1)		挨拶表現を使って、ドイツ語のつづりと発音の関係を学ぶ(1)							
第2回	0課 発音の基礎(2)		挨拶表現を使って、ドイツ語のつづりと発音の関係を学ぶ(2)							
第3回	1課 名前、住まい、出身、身分(1)		公的な場面で相手と話す・自己紹介する							
第4回	1課 名前、住まい、出身、身分(2)		親しい間柄の相手と話す・自己紹介する							
第5回	2課 簡単な質問に答える(1)		「はい」「いいえ」を使って答える							
第6回	2課 簡単な質問に答える(2)		「はい」「いいえ」を使わないで答える							
第7回	3課 買い物をする(1)		数詞を学ぶ。値段を尋ねる・答える。時刻(1)いま何時ですか?							
第8回	3課 買い物をする(2)		店に入って買い物をする							
第9回	4課 身の回りの物について話す(1)		身近な単語を会話に取り入れる(1)							
第10回	4課 身の回りの物について話す(2)		身近な単語を会話に取り入れる(2)							
第11回	5課 身近な人について話す		身近な人を話題に登場させる							
第12回	5課 電話をかける/友達を誘う		誘いかけの表現に慣れる							
第13回	6課 カフェで注文する		カフェで、何を注文するか友達と相談し、実際に注文する							
第14回	総復習(1~6課)		プリントを使って学習した内容を総復習							
第15回	まとめ(1~6課)		学習内容の総仕上げ							
授業方法(わ てマド、7974 ブ・ラウング等)	<p>ロールプレイング</p> <p>場面設定しロールプレイングをおこない、ドイツ語表現を学びます。</p>									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>・ 期末試験50%、授業への参加度50%で総合的に評価します。</p> <p>・ 授業への参加度を重視します。</p>									
課題等	各講義の終わりに、次回のための課題があれば連絡します。									
事前事後 学修	学習したドイツ語表現を繰り返し発音して覚えましょう。									
教材 教科書 参考書	<p>教科書は「ドイツ語インフォメーション neu²」(朝日出版社)[ISBN978-4-255-25358-9]</p> <p>辞書には「やさしい!ドイツ語の学習辞典」(同学社)[ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。</p>									
留意点	ドイツ語 Bと共通教科書を使い連携して理解を深めます。授業への参加度重視。積極的に授業に参加しましょう。									

科目名	ドイツ語B		科目コード	W24015	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナバリング	W-BFCBO-20.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 〔キーワード：聞く、話す、書く〕ドイツ語の基礎的な運用能力（聞く、話す、書く）を養う。 ドイツ語の学習をとおして、ドイツ人のものの考え方やドイツ文化の一端に触れる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成 ・基礎的なドイツ語文法の習得 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	つづりと発音 (1)		アルファベットと簡単な挨拶							
第2回	つづりと発音 (2)		母音と子音、数の読み方							
第3回	タナカマコトと申します (1)		1課：テキストとパートナー練習							
第4回	タナカマコトと申します (2)		1課：練習問題と演習							
第5回	何をしているの？ (1)		2課：テキストとパートナー練習							
第6回	何をしているの？ (2)		2課：練習問題と演習							
第7回	その帽子はいくらですか？ (1)		3課：テキストとパートナー練習							
第8回	その帽子はいくらですか？ (2)		3課：練習問題と演習							
第9回	コーヒーを一杯ください (1)		4課：テキストとパートナー練習							
第10回	コーヒーを一杯ください (2)		4課：練習問題と演習							
第11回	こちらザビーネです (1)		5課：テキストとパートナー練習							
第12回	こちらザビーネです (2)		5課：練習問題と演習							
第13回	何を注文する？ (1)		6課：テキストとパートナー練習							
第14回	何を注文する？ (2)		6課：練習問題と演習							
第15回	まとめ		前期の総まとめ							
授業方法(わ どモド、7941 ブテンゴ等)	特になし									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業への参加度、及び定期試験を総合的に評価します。 授業への参加度（平常点）50% 定期試験 50% 定期試験では、基礎的な課題の理解度・習得度を試します。</p>									
課題等	それぞれの課で学習したキーセンテンスを覚えてくる。つぎの時間の初めに、覚えてきたキーセンテンスを復習します。									
事前事後 学修	新しい課に入る前に、CDでテキストを聞いてくる。各課の終わった後には、CDで「練習問題」を聞いて解答を確認しておく。									
教材 教科書 参考書	<p>「ドイツ語インフォメーション neu²」（朝日出版社）[ISBN978-4-255-25358-9]を教科書として使います。 「やさしい！ドイツ語の学習辞典」（同学社）[ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。</p>									
留意点	ドイツ語Aと共通教科書を使い、連携して理解を深めます。新しいことに挑戦するつもりで楽しんで積極的に参加してください。									

科目名	ドイツ語C		科目コード	W24016	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナバリング	W-BFCB0-21.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ドイツ語圏の文化を知り、ドイツ語でコミュニケーションする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>① ドイツ語で挨拶ができる。</p> <p>② ドイツ語で自己紹介や簡単なコミュニケーションができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	思い出そう！		前期に学んだドイツ語を復習する							
第2回	6課 わたしは（を）？		僕は君を愛している。君は僕を愛している？							
第3回	7課 道を尋ねる・教える(1)		道案内に役立つ表現を学ぶ(1)							
第4回	7課 道を尋ねる・教える(2)		道案内に役立つ表現を学ぶ(2)							
第5回	8課 ニュアンスを付け加える方法(1)		～できる、～せねばならない、などニュアンス表現を学ぶ							
第6回	8課 ニュアンスを付け加える方法(2)		～したいのですが、～してもよいですか？などニュアンス表現を学ぶ							
第7回	9課 ユニークな動詞・命令文		ユニークな動詞を使ってドイツ語の語順を理解する							
第8回	9課 何時に～する		時刻を尋ねる(2)							
第9回	10課 上等なワイン・ワインは上等だ		「上等な」(形容詞)の注意点							
第10回	10課「自分」表現・友達を誘う表現		「自分」(sich)・相手の趣味や好きなことを尋ねる							
第11回	11課、12課 過去を表現する(1)		過去のことを話す(1)							
第12回	11課、12課 メール、カードを書く		クリスマスや新年の挨拶を学び、クリスマスカードを書く							
第13回	11課、12課 過去を表現する(2)		過去のことを話す(2)							
第14回	総復習(6課～12課)		プリントを使って学習した内容を総復習							
第15回	まとめ(6課～12課)		学習内容の総仕上げ							
授業方法(わ ざり、フ アーンゲ等)	ロールプレイング 場面設定しロールプレイングをおこない、ドイツ語表現を学びます。									
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験50%、授業への参加度50%で総合的に評価します。 ・ 授業への参加度を重視します。 									
課題等	各講義の終わりに、次回のための課題があれば連絡します。									
事前事後 学修	学習したドイツ語表現を繰り返し発音して覚えましょう。									
教材 教科書 参考書	教科書は「ドイツ語インフォメーション neu ² 」(朝日出版社) [ISBN978-4-255-25358-9] 辞書には「やさしい!ドイツ語の学習辞典」(同学社) [ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。									
留意点	ドイツ語Dと共通教科書を使い連携して理解を深めます。授業への参加度重視。積極的に授業に参加しましょう。									

科目名	ドイツ語D		科目コード	W24017	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナバリング	W-BFCB0-22.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 [キーワード：聞く、話す、書く]ドイツ語の基礎的な運用能力（聞く、話す、書く）を養う。 ドイツ語の学習をとおして、ドイツ人のものの考え方やドイツ文化の一端に触れる。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成 ・基礎的なドイツ語文法の習得 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	前期復習		復習とコミュニケーション演習							
第2回	市庁舎へはどう行きますか？ (1)		7課：テキストとパートナー練習							
第3回	市庁舎へはどう行きますか？ (2)		7課：練習問題と演習							
第4回	ホテルには歩いて行けますか？ (1)		8課：テキストとパートナー練習							
第5回	ホテルには歩いて行けますか？ (2)		8課：練習問題と演習							
第6回	列車は何時に出るの？ (1)		9課：テキストとパートナー練習							
第7回	列車は何時に出るの？ (2)		9課：練習問題と演習							
第8回	音楽に興味があります (1)		10課：テキストとパートナー練習							
第9回	音楽に興味があります (2)		10課：練習問題と演習							
第10回	とてもよかった！ (1)		11課：テキストとパートナー練習							
第11回	とてもよかった！ (2)		11課：練習問題と演習							
第12回	おいしかった！ (1)		12課：テキストとパートナー練習							
第13回	おいしかった！ (2)		12課：練習問題と演習							
第14回	総復習		復習とコミュニケーション演習							
第15回	まとめ		後期の総まとめ							
授業方法(わ ずのり、ア ブ・テック等)	特になし									
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、及び定期試験を総合的に評価します。 授業への参加度（平常点）50% 定期試験 50% 定期試験では、基礎的な課題の理解度・習得度を試します。									
課題等	それぞれの課で学習したキーセンテンスを覚えてくる。つぎの時間の初めに、覚えてきたキーセンテンスを復習します。									
事前事後 学修	新しい課に入る前に、CDでテキストを聞いてくる。各課の終わった後には、CDで「練習問題」を聞いて解答を確認しておく。									
教材 教科書 参考書	「ドイツ語インフォメーション neu ² 」（朝日出版社）[ISBN978-4-255-25358-9]を教科書として使います。 「やさしい！ドイツ語の学習辞典」（同学社）[ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。									
留意点	ドイツ語Cと共通教科書を使い、連携して理解を深めます。新しいことに挑戦するつもりで楽しんで積極的に参加してください。									

科目名	フランス語A		科目コード	W24018	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目名パブリック	W-BFCB0-23.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	松山 和子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 フランス語の基本要素や特徴を知り、日本語や英語との違いを比較しながら、コミュニケーション・ツールとしてのフランス語を身につけます。また、フランス語圏の文化や歴史、日常生活にも触れ、旅先で使うことだけでなく、日本を訪れるフランス語圏の人々との交流も視野に入れ、実践的な授業を行います。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	フランス語で自己紹介・他己紹介ができるようになる！									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考
第1回	挨拶と教室で使う表現		フランス語のアルファベット・発音と綴り字・挨拶							
第2回	名前・国籍、元気かどうかを聞く①		第1課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現							
第3回	名前・国籍、元気かどうかを聞く②		第1課：前回の学習内容の復習→応用と実践（名前、国籍、元気かどうかを尋ねたり、答えたりする）							
第4回	職業、住んでいるところを言う①		第2課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現							
第5回	職業、住んでいるところを言う②		第2課：前回の学習内容の復習→応用と実践（職業、住んでいるところを言う）							
第6回	話す言語①		第3課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現							
第7回	話す言語②		第3課：前回の学習内容の復習→応用と実践（話せる言語と話せない言語について）							
第8回	持ち物、兄弟姉妹、年齢について言う①		第4課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現							
第9回	持ち物、兄弟姉妹、年齢について言う②		第4課：前回の学習内容の復習→応用と実践（持っているもの・いないもの、兄弟姉妹の有無、年齢について話す）							
第10回	人物描写①		第5課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現							
第11回	人物描写②		第5課：前回の学習内容の復習→応用と実践（人について説明する）							
第12回	これは何ですか？ ～はどこですか？①		第6課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現							
第13回	これは何ですか？ ～はどこですか？②		第6課：前回の学習内容の復習→応用と実践（物や場所について尋ねたり、答えたりする）							
第14回	前期の復習①		フランス語で自己紹介をする							
第15回	前期の復習②		フランス語で他己紹介文をする							
授業方法(わ デモド、ア ブ・ラング等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング							
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価50%（グループワークや課題等への取り組み方を評価します）。定期試験50%（試験は口頭発表ですので、フランス語による表現力が評価されます）。									
課題等	課題（宿題）出された場合は、定められた期限内に提出してください。次時間以降の授業時に返却します。									
事前事後 学修	毎回きちんと復習をし、次回の授業に備えてください。									
教材 教科書 参考書	『新装 カフェ・フランセ』 朝日出版社 ISBN 978-4-255-35262-6 C1085									
留意点	双方向的な授業形態を採っていますので、質問や意見交換等は大いに歓迎します。									

科目名	フランス語B		科目コード	W24019	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCBO-24.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	松山 和子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 フランス語の基本要素や特徴を知り、日本語や英語との違いを比較しながら、コミュニケーション・ツールとしてのフランス語を身につけます。また、フランス語圏の文化や歴史、日常生活にも触れ、旅先で使うことだけでなく、日本を訪れるフランス語圏の人々との交流も視野に入れ、実践的な授業を行います。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	フランス語で簡単な会話ができるようになる！									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	好きなもの・嫌いなもの①		第7課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現							
第2回	好きなもの・嫌いなもの②		第7課：前回の学習内容の復習→応用と実践（好き嫌いについて話す）							
第3回	天気と服装①		第8課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現							
第4回	天気と服装②		第8課：前回の学習内容の復習→実践と応用（どんな天気か、何を身に着けているかについて話す）							
第5回	朝ごはん・スポーツ①		第9課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現							
第6回	朝ごはん・スポーツ②		第9課：前回の学習内容の復習→応用と実践（食べ物やスポーツについて話す）							
第7回	～へ行きましょう！①		第10課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現							
第8回	～へ行きましょう！②		第10課：前回の学習内容の復習→応用と実践（行くところ、行きたいところについて話す）							
第9回	1日のスケジュール①		第11課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現							
第10回	1日のスケジュール②		第11課：前回の学習内容の復習→応用と実践（平日にすること）							
第11回	1日のスケジュール③		第11課：前回の学習内容の復習→応用と実践（休日にすること）							
第12回	課外活動について話す		第12課：サークル活動、ボランティア活動、アルバイト等について話す							
第13回	フランスの食事の流れを考える		第13課：レストランで使用される用語や会話の練習							
第14回	後期の復習①		日常生活について話す							
第15回	後期の復習②		休暇の過ごし方について話す							
授業方法(わ ずび、学び ア・ラング等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング							
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価50%（グループワークや課題等への取り組み方を評価します）。定期試験50%（試験は口頭発表ですので、フランス語による表現力が評価されます）。									
課題等	課題（宿題）が出された場合は、定められた期限内に提出してください。次時間以降の授業時に返却します。									
事前事後 学修	毎回きちんと復習をし、次回の授業に備えてください。									
教材 教科書 参考書	『新装 カフェ・フランセ』 朝日出版社 ISBN 978-4-255-35262-6 C1085									
留意点	双方向的な授業形態を採っていますので、質問や意見交換等は大いに歓迎します。									

科目名	フランス語C		科目コード	W24020	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-25.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	工藤 貴子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>仏語の基礎的会話表現の習得を目標とするもう一方の授業の助けとなるよう、この授業では身につけた表現に文法的な側面から説明を加え、多様な表現に応用できるようにします。また、正確な発音のためにスペルと音の密接な関係を理解して円滑な発話行為につなげます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>① 外国語に苦手意識がある場合はその解消をし、他者や他国のことを知る楽しさに目覚める。</p> <p>② 自分や周りの人について、平易なフランス語で説明できる。</p> <p>③ ②に必要なフランス語の基礎的文法知識や発音の規則を学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	あいさつの表現、アルファベ		授業内容の説明→簡単なあいさつ、自分の名前とスペルをアルファベで言える							
第2回	主語人称代名詞(1)、他者の名前を言う		他者の名前とそのスペルをアルファベで言う(アルファベの暗記)							
第3回	国籍の女性形		自分や他者の国籍を言う/国籍の女性形の作り方を理解する							
第4回	主語人称代名詞(2)、動詞 être 活用		動詞 être を使って国籍や出身地を言う							
第5回	職業の女性形、動詞 être 用法		職業の女性形の作り方理解、口頭練習→活用問題演習							
第6回	第一群規則動詞(1)		話せる言語と居住地を言う/第一群規則動詞活用練習							
第7回	第一群規則動詞(2)		第一群規則動詞の正しい発音→活用問題演習							
第8回	否定形の作り方		話せる言語と話せない言語を言う、否定形							
第9回	動詞 avoir 活用		動詞 avoir を使って自分や他者の年齢を言う							
第10回	名詞の性と不定冠詞		動詞 avoir を使って兄妹構成を言う、10回までに学んだ表現を使って自己紹介する→問題演習							
第11回	形容詞の性の一致/形容詞の位置(原則)		自分の外見や性格を形容詞を使って描写する							
第12回	形容詞の性数一致/形容詞の位置(例外)		問題演習を通して形容詞の性数一致のルール、形容詞と名詞の語順を理解する							
第13回	所有形容詞(1)「私の」		自分の家族(名前、続柄、職業、年齢)を紹介する							
第14回	所有形容詞(2)「あなたの」「彼(女)の」		他者の家族構成を尋ねる、説明する→問題演習							
第15回	前期まとめ		文法事項、発音とつづり字の規則を中心に総復習							
授業方法(オンライン、フリップ・ペン等)	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り	クイズ、小テスト	理解度チェック	まとめアクティビティ			
評価方法及び評価基準	<p>授業への参加度(10%)、適宜行う小テストと課題の提出状況(10%)、期末試験(80%=内容理解を問うリスニング問題20~30%+文法知識を問う筆記問題70~80%)</p>									
課題等	<p>文法事項の定着をはかるため適宜課される課題や小テストは次回授業に返却し、適宜解説をします。また、理解が不十分な場合は個別に丁寧にサポートします。</p>									
事前事後学修	<p>前回授業の復習を週当たり90分程度行い、出席して下さい。テキスト会話文の音読(テキスト音声聴きながら)と文法事項の見直し(練習問題を再度解くなど)を推奨します。また授業で適宜紹介するフランス事情や文化の参考文献も紹介しますので、それを読んで関心や理解を深めるようにしましょう。</p>									
教材教科書参考書	<p>教科書→ニコラ・ガイヤール他著 Café Français Nouveau 『新装 カフェ・フランセ』(朝日出版社) ISBN 978-4-255-35262-6 C1085 参照HP→ https://text.asahipress.com/text-web/france/cafefrançais/index.html 参考書→安發明子『一人ひとりに届ける福祉を支える フランスの子どもの育ちと家族』(かもがわ出版) ISBN 978-4-7803-1280-5 C0036</p>									
留意点	<p>「フランス語A」と共通テキストを使い、連携して授業を行うことで理解を深めます。仏語のしくみをみなさん自身で見えるよう配慮しますので、質問などの発言大歓迎。欠席した場合の授業内容や課題の有無に関する質問等連絡は右記の担当教師アドレスまで: lutetia_lutetia@yahoo.co.jp</p>									

科目名	フランス語D		科目コード	W24021	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナバリング	W-BFCB0-26.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	工藤 貴子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 仏語の基礎的会話表現の習得を目標とするもう一方の授業の助けとなるよう、この授業では身につけた表現に文法的な側面から説明を加え、多様な表現に応用できるようにします。また、正確な発音のためにスペルと音の密接な関係を理解して円滑な発話行為につなげます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>①外国語に苦手意識がある場合はその解消をし、他者や他国のことを知る楽しさに目覚める。 ② 自分や考えや行動について、平易なフランス語で説明できる。 ③ ②に必要なフランス語の基礎的文法知識や発音の規則を学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	前期の復習、モノの位置を説明する		場所を表す語句をマスターし、位置を説明する口頭練習							
第2回	好みを言う		第一群規則動詞(aimer, adorer, préférer) 活用復習→好みを言う							
第3回	定冠詞と不定冠詞の使い分け		好みを言う(復習)→不定冠詞と定冠詞の 使い分け理解→問題演習							
第4回	比較級の作り方		比較級を用いてお互いの意見を交換し、理解する							
第5回	特殊な優等比較級、非人称構文		比較級の問題演習を通して特殊な優等比較級の形を理解する→ 天候を言う口頭練習							
第6回	動詞vouloir活用、部分冠詞(1)		動詞 vouloir 活用練習→不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の概念 を理解し、正しく使い分ける							
第7回	動詞 prendre 活用、部分冠詞(2)		動詞 prendre 活用練習→朝食のメニューを説明する							
第8回	動詞 faire 活用、部分冠詞の復習		動詞 faire 活用練習→部分冠詞を復習しながらするスポーツ について話す							
第9回	動詞 aller 活用、前置詞と定冠詞の縮 約(1)		動詞 aller 活用練習→行き先を言う							
第10回	前置詞と定冠詞の縮約(2)		前置詞と定冠詞の縮約(問題演習)							
第11回	複合過去(助動詞 avoir)		過去分詞の作り方→過去形の作り方(1)、週末を語る(1)							
第12回	複合過去(助動詞 être)		過去形の作り方(2)→過去分詞の性数一致、週末を語る(2)							
第13回	複合過去まとめ/時刻を尋ねる、言う(1)		複合過去問題演習→「時刻を尋ねる・言う」ための表現							
第14回	時刻を尋ねる、言う(2)		「～分」の注意すべき表現							
第15回	後期まとめ		文法事項、発音とつづり字の規則を中心に総復習							
授業方法(わ ずらひ、アサヒ ブ・フランス等)	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り	クイズ、小テスト	理解度チェック	まとめアクティビ ティ			
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度(10%)、適宜行う小テストと課題の提出状況(10%)、期末試験(80%=内容理解を問うリスニング問題 20~30%+文法知識を問う筆記問題70~80%)									
課題等	文法事項の定着をはかるため適宜課される課題や小テストは次回授業に返却し、適宜解説をします。また、理解が不十分な 場合は個別に丁寧にサポートします。									
事前事後 学修	前回授業の復習を週当たり90分程度行い、出席して下さい。テキスト会話文の音読(テキスト音声を聴きながら)と文法事項 の見直し(練習問題を再度解くなど)を推奨します。また授業で適宜紹介するフランス事情や文化の参考文献も紹介しますの で、それを読んで関心や理解を深めるようにしましょう。									
教材 教科書 参考書	教科書→ニコラ・ガイヤール他著 Café Français Nouveau 『新装 カフェ・フランセ』(朝日出版社) ISBN 978-4-255- 35262-6 C1085 参照HP→ https://text.asahipress.com/text-web/france/cafe/francais/index.html 参考書→安發 明子『一人ひとりに届ける福祉を支える フランスの子どもの育ちと家族』(かもがわ出版)ISBN 978-4-7803-1280-5 C0036									
留意点	「フランス語B」と共通テキストを使い、連携して授業を行うことで理解を深めます。仏語のしくみをみなさん自身で発見 できるよう配慮しますので、質問などの発言大歓迎。欠席した場合の授業内容や課題の有無に関する質問等連絡は右記の担 当教師アドレスまで: lutetia_lutetia@yahoo.co.jp									

科目名	中国語 A		科目コード	W24022	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-27.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	李 淑賢			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>中国語の発音から基本的な文法、日常会話まで総合的に学習します。特に中国語の独特な発音や声調の把握に力を注ぎ、中国語による日常の基本的コミュニケーション能力を身に付けることを目指します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	中国語の正確な発音、基本的な文法、日常会話を身に付けることが目標である。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	声調、単母音の練習		声調（四声）、単母音の特徴、発音の要領							
第2回	声調、複母音の練習		声調（四声）、複母音の特徴、発音の要領							
第3回	子音の練習		子音の特徴、発音の要領							
第4回	子音の練習		子音の特徴、発音の要領							
第5回	鼻母音の練習		鼻母音の特徴、発音の要領							
第6回	鼻母音の練習		鼻母音の特徴、発音の要領							
第7回	声調の変化と挨拶言葉		不、一等声調の変化規則と你好、再见等挨拶言葉の練習							
第8回	声調の変化と挨拶言葉		不、一等声調の変化規則と你好、再见等挨拶言葉の練習							
第9回	人称代名詞、疑問助詞		我、你、他、她について例文を挙げながら練習する							
第10回	人称代名詞、疑問助詞		我、你、他、她について例文を挙げながら練習する							
第11回	動詞文、疑問詞		動詞文、疑問文について例文を挙げながら練習する							
第12回	動詞文、副詞		動詞文、副詞について例文を挙げながら練習する							
第13回	指示代名詞の使い方		这个、那个、哪个等について例文を挙げながら練習する							
第14回	指示代名詞の使い方		这里、那里、哪里等について例文を挙げながら練習する							
第15回	復習、まとめ		総合復習							
授業方法(わ てんぽう、7774 ブ・ラング等)	ペアワーク	ロールプレイング	授業中のノート取り	理解度チェック	クイズ、小テスト					
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み（出席を含む）10% 発音テスト30% 筆記テスト60% 中国語の語句や基本的な文法に対する理解度を試す問題を出す。答案構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身に付ける。発音段階ではペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
事前事後 学修	正しい発音の練習、文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。									
教材 教科書 参考書	【教科書】《日中いぶこみ交差点》（著者：相原 茂、陳 淑梅、飯田敦子）朝日出版社 ISBN978-4-255-45286-9C1087（本体2,750円+税）									
留意点	前期と後期、それぞれ6回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり（文学部40名、福祉学部10名）。									

科目名	中国語B		科目コード	W24023		単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナバリング	W-BFCB0-28.S		時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	李 淑賢				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 中国語の発音から基本的な文法、日常会話まで総合的に学習します。特に中国語の独特な発音や声調の把握に力を注ぎ、中国語による日常の基本的コミュニケーション能力を身に付けることを目指します。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。										
	到達 目標	中国語の正確な発音、基本的な文法、日常会話を身に付けることが目標である。									
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	助動詞、反復疑問文		助動詞や反復疑問文の文型について学習する								
第2回	助動詞、反復疑問文		助動詞や反復疑問文の文型について学習する								
第3回	数字と量詞、疑問詞		年齢の言い方などについて学習する								
第4回	数字と量詞、疑問詞		数量の表し方について学習する								
第5回	過去の経験を表す文型 “过”		過去の経験を言い表す文型を学習する								
第6回	過去の経験を表す文型 “过”		過去の経験を言い表す文型を学習する								
第7回	助動詞“要”と前置詞“给”の使い方		助動詞“要”と前置詞“给”の文型を学習する								
第8回	比較するの言い方		比較する文型を学習する								
第9回	比較するの言い方		比較する文型を学習する								
第10回	助動詞“可以”と動詞の重ね型		助動詞“可以”と動詞の重ね型の文型を学習する								
第11回	お金の言い方（名詞述語文）		お金の言い方（名詞述語文）について学習する								
第12回	年月日、曜日の言い方（名詞述語文）		年月日、曜日の言い方（名詞述語文）について学習する								
第13回	自己紹介の言い方		自己紹介に関する例文を学習する								
第14回	自己紹介の言い方		それぞれの自己紹介を発表する								
第15回	復習、まとめ		総合復習								
授業方法(わ ずらい、ア ブ・トレーニング等)	ペアワーク	ロールプレイング	授業中のノート取り	理解度チェック	クイズ、小テスト						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み（出席を含む）10% 発音テスト30% 筆記テスト60% 中国語の語句や基本的な文法に対す理解度を試す問題を出す。答案構成や合理性を重点的に評価する。										
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身に付ける。発音段階ではペアワークによりプレゼンテーションを行う。										
事前事後 学修	正しい発音の練習、文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。										
教材 教科書 参考書	【教科書】《日中いぶこみ交差点》（著者：相原 茂、陳 淑梅、飯田敦子）朝日出版社 ISBN978-4-255 - 45286-9C1087 （本体2,750円+税）										
留意点	前期と後期、それぞれ6回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり（文学部40名、福祉学部10名）。										

科目名	中国語C		科目コード	W24024	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナバリング	W-BFCB0-29.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	顧 国玉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 中国語を初めて学ぶ学生を対象とする内容です。中国語の発音や基本文法などを総合的に学ぶ内容です。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
	到達 目標	基本的な音の聞き取りと発音の基礎が身につく、音の綴り方なども理解できていること。 基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身につくこと。 基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること。								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	導入			オリエンテーション						
第2回	声調、単母音			単母音、複母音を学ぶ						
第3回	単母音・複母音・ピンインのつけ方			単母音・複母音・ピンインのつけ方を学ぶ						
第4回	子音			子音を学ぶ						
第5回	子音・鼻音を伴う母音			子音・鼻音を伴う母音を学ぶ						
第6回	声調変化			声調変化を学ぶ						
第7回	発音の復習			発音の復習						
第8回	人称代名詞、挨拶ことば			人称代名詞、挨拶ことば						
第9回	“是”構文、疑問文			“是”構文、疑問文の作り方						
第10回	姓名の言い方、語気助詞			姓名の言い方、語気助詞						
第11回	指示代名詞、“的”			指示代名詞、“的”の使い方						
第12回	副詞、動詞述語文			副詞、動詞述語文						
第13回	助動詞			助動詞						
第14回	疑問詞			疑問詞の使い方						
第15回	まとめ+テスト			まとめ						
授業方法(わ ずみ、アクテ ブ・ラーニング等)	特になし									
評価 方法 及び 評価 基準	平常・中間評価(授業へのとりくみ、小テスト、課題、発表など) 40% 期末評価(期末発表、期末テストなど) 60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。									
課題等	必要に応じて授業で指示する。									
事前事後 学修	(予習) テキストで学習する内容について、事前に把握しておくこと。 (復習) 正しい発音や声調を身につけていくためには、学習後の反復練習が大事です。この授業ではとくに自宅での復習や課題演習が重視されますので、その日習った内容を自宅できちんと復習し、授業で出される課題はきちんと準備しておくこと。									
教材 教科書 参考書	『日中いぶこみ交差点』(相原茂・陳淑梅・飯田敦子) 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-45286-9									
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位修得不可(公欠や病欠を除く)。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり(文学部40名、社福学部10名)									

科目名	中国語D		科目コード	W24025	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナバリング	W-BFCB0-30.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	顧 国玉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 基本的な文法を理解し、基礎的な語彙が身についていること。 基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
	到達 目標	基本的な表現を使って初歩的なコミュニケーションが可能になること。								
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	反復疑問文、助動詞		反復疑問文、助動詞を学ぶ							
第2回	数詞、年齢の表現		数詞、年齢の言い方							
第3回	量詞		量詞を学ぶ							
第4回	“有”		“有”の文型を学ぶ							
第5回	過去経験		過去経験の表現を学ぶ							
第6回	選択疑問文、形容詞述語文		選択疑問文、形容詞述語文を学ぶ							
第7回	主述述語文		主述述語文を学ぶ							
第8回	比較表現		比較表現を学ぶ							
第9回	前置詞		前置詞の使い方を学ぶ							
第10回	動詞の重ね方		動詞の重ね方を学ぶ							
第11回	方向補語		補講補語を学ぶ							
第12回	お金の言い方（名詞述語文）		お金の言い方（名詞述語文）を学ぶ							
第13回	自己紹介		自己紹介の表現を学ぶ							
第14回	自己紹介		自己紹介							
第15回	まとめ+テスト		まとめ							
授業方法(わ ずらひ、ア ラビ、ラ ンゲ等)	特になし									
評価 方法 及び 評価 基準	平常・中間評価（授業へのとりくみ、小テスト、課題、発表など）40% 期末評価（期末発表、期末テストなど）60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。									
課題等	必要に応じて授業で指示する。									
事前事後 学修	〔予習〕テキストで学習する内容について、事前に把握しておくこと。 〔復習〕正しい発音や声調を身につけていくためには、学習後の反復練習が大事です。この授業ではとくに自宅での復習や課題演習が重視されますので、その日習った内容を自宅できちんと復習し、授業で出される課題はきちんと準備しておくこと。									
教材 教科書 参考書	『日中いぶこみ交差点』（相原茂・陳淑梅・飯田敦子）朝日出版社 ISBN: 978-4-255-45286-9									
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり（文学部40名、社福学部10名）									

科目名	韓国語A (a) (b)		科目コード	(a)W24026 (b)W24030	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	前期
			科目ナバリング	W-BFCB0-31.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択必修	担当者名	ケン・テホ			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 国際通用韓国語標準教育課程 1級の韓国語の文法と単語を学びます。学んだ韓国語を読む、聞くようになります。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
	到達目標	① ハングルの読み書きができるようになります。 ② 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な約26個の文法内容を学びます。 ③ 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な約144個の単語を学びます。 ④ 韓国の文化を学びます。								
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	韓国語入門①：韓国語とハングル		韓国文化の紹介、ハングルの歴史、ひらがなとハングルの違い							
第2回	韓国語入門②：韓国語とハングル		ハングルの読み方							
第3回	初級 1-1：自己紹介		文法 (은, 이다)							
第4回	初級 1-2：家族		文法 (이, 이 아니다)							
第5回	初級 1-3：日常生活		文法 (습니다, 을, 도)							
第6回	初級 1-4：学校		文法 (과, 하고, 의)							
第7回	初級 1-5：天気 1		文法 (-어요, -지 않다)							
第8回	初級 1-6：友だち		文法 (에게, 한테, 만)							
第9回	初級 1-7：位置		文法 ((장소)에, 에서)							
第10回	初級 1-8：日にち		文法 (-었-, (시간)에)							
第11回	初級 1-9：運動		文法 (부터, -지 못하다)							
第12回	初級 1-10：約束		文法 (-을까, -읍시다, -고)							
第13回	初級 1-11：食べ物		文法 (-어서, -고 싶다)							
第14回	初級 1-12：買い物 1		文法 (-지만, 보다)							
第15回	復習・まとめ		まとめ							
授業方法(わ デフレッド、7774 ブ・テング等)	クイズ、小テスト	理解度チェック	授業中のノート取り	ジグソー・リーディ ング	発表、ポスター作成					
評価 方法 及び 評価 基準	① 文法小テスト (30%) ② ワークブック (30%) ③ 筆記試験 (40%)									
課題等	① ワークブックは白紙に答えだけを書き、自己採点をしてから、紙で提出してください。 ② 筆記試験はTOPIKの過去問から問題を出します。教科書の復習問題を参考してください。									
事前事後 学修	① 事前学修：教科書に出ている単語で単語集を作成してください。単語集の単語を覚えてきてください。 ② 事後学修：教科書の各チャプタに対するワークブックに取り組みてください。 ③ 必要な学修時間は週に3時間以上です。									
教材 教科書 参考書	① 世宗学堂韓国語 入門 (データで配布) ② 世宗学堂韓国語 1 ISBN 979-11-6904-323-6 (データで配布) ③ 世宗学堂韓国語 1 教材 ISBN 979-11-6904-400-4 (93710) (データで配布)									
留意点	① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。 ② 講義中やワークブックをする時は、絶対に翻訳機能を使わないようにしてください。									

科目名	韓国語B (a) (b)		科目コード	(a)W24027 (b)W24031	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナバリング	W-BFCB0-32.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	ケン・テホ				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 国際通用韓国語標準教育課程 1級の韓国語の表現と単語を学びます。学んだ韓国語を話すようになります。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
	到達 目標	① ハングルの読み書きができるようになります。 ② 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な色々な状況においての韓国語の表現を学びます。 ③ 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な約144個の単語を学びます。 ④ 韓国の文化を学びます。								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	韓国語入門：スピーキング			韓国文化の紹介、ハングルの読み方						
第2回	韓国の文化 1			韓国の祝日(명절)						
第3回	初級 1-1：自己紹介			挨拶、自己紹介						
第4回	初級 1-2：家族			家族の紹介、家族の職業の紹介						
第5回	韓国の文化 2			韓国の伝統遊び 1						
第6回	初級 1-3：日常生活			好きなもの、好きな食べ物						
第7回	初級 1-4：学校			学校の紹介、教室の紹介						
第8回	韓国の文化 3			韓国の伝統遊び 2						
第9回	初級 1-5：天気 1 初級 1-6：友だち			天気の表現、韓国の季節 友だちについて話す、手紙						
第10回	初級 1-7：位置 初級 1-8：日いち			位置について話す、部屋の紹介 週末にしたこと						
第11回	模擬スピーキングテスト			復習、スピーキングテストの練習						
第12回	初級 1-9：運動 初級 1-10：約束			好きなスポーツについて 提案、週末計画						
第13回	初級 1-11：食べ物 初級 1-12：買い物 1			メニューを決める プレゼントのおすすめ						
第14回	自由発表			発表						
第15回	復習・まとめ			スピーキングテストの練習						
授業方法(わ ずみ、ア ンテナ等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	発表、ポスター作成	まとめアクティビ ティ	クイズ、小テスト				
評価 方法 及び 評価 基準	① 単語テスト (30%) ② 課題(作文・自由発表) (30%) ③ スピーキングテスト (40%)									
課題等	① 作文は自己紹介を書きます。教科書に紹介されている文法を最大活用することを目標にします。 ② 自由発表は発表の技術を含め、自然にメッセージを伝えるかを評価します。									
事前事後 学修	① 事前学修：教科書に出ている単語で単語集を作成してください。講義で発表する台本を準備してください。 ② 事後学修：韓国語の動画(映画・ドラマなど)を毎週1時間以上視聴してください。単語集の単語を覚えてきてください。 ③ 必要な学修時間は週に3時間以上です。									
教材 教科書 参考書	① 世宗学堂韓国語 入門(データで配布) ② 世宗学堂韓国語 1 ISBN 979-11-6904-323-6 (データで配布) ③ 世宗学堂韓国語 1 教材 ISBN 979-11-6904-400-4(93710) (データで配布)									
留意点	① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。 ② 本講義は会話中心の講義です。パートナーと話したり、発表したりすることが毎時間あります。									

科目名	韓国語 C (a) (b)		科目コード	(a) W24028 (b) W24032	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCBO-33.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	ケン・テホ			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>国際通用韓国語標準教育課程 1 級と 2 級の韓国語の文法と単語を学びます。学んだ韓国語を読む、聞くようになります。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの 1, 2, 3, 4 に関連し、カリキュラムポリシーの 1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2 に関連する。</p>									
到達 目標	<p>① 国際通用韓国語標準教育課程 1 級に必要な約 18 個の文法内容を学びます。</p> <p>② 国際通用韓国語標準教育課程 1 級に必要な約 144 個の単語を学びます。</p> <p>③ 国際通用韓国語標準教育課程 2 級に必要な約 23 個の文法内容を学びます。</p> <p>④ 国際通用韓国語標準教育課程 2 級に必要な約 125 個の単語を学びます。</p> <p>⑤ 韓国の文化を学びます。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	前期の復習		初級 1-1 から 12 まで							
第2回	初級 1-13 : 趣味 1 初級 1-14 : 旅行		文法 (-을 수 있다, -고 있다) 文法 (-기 전에, -으려고)							
第3回	初級 1-14 : 旅行 初級 1-15 : 健康 1		文法 (-기 전에, -으려고) 文法 (-은 후에, -으세요)							
第4回	初級 1-16 : 交通 初級 1-17 : 招待		文法 (에서, 까지, -으십시오) 文法 (-어야 되다, -고요)							
第5回	初級 1-17 : 招待 初級 1-18 : 余暇時間		文法 (-어야 되다, -고요) 文法 (-으니까, 으로)							
第6回	初級 1-19 : 方向 初級 1-20 : 訪問		文法 (-으로, 이랑) 文法 (-으시-, 께서)							
第7回	初級 1-20 : 訪問		文法 (-으시-, 께서)							
第8回	初級 2-1 : 天気 2 初級 2-2 : 買い物 2		文法 (-겠-, -네) 文法 (에게서, 한테서, -어 보다)							
第9回	初級 2-2 : 買い物 2 初級 2-3 : 外見		文法 (에게서, 한테서, -어 보다) 文法 (-은, -는, 께)							
第10回	初級 2-4 : 買い物 3 初級 2-5 : 注文		文法 (-는데, -는 것) 文法 (-을게, -기)							
第11回	初級 2-5 : 注文 初級 2-6 : 休暇		文法 (-을게, -기) 文法 (-은 적이 있다, -기로 하다)、休暇計画について							
第12回	初級 2-7 : 健康 2 初級 2-8 : 映画		文法 (-게, -지 않다)、健康状態と治療方法について 文法 (-을래, 밖에)、映画の予約について							
第13回	初級 2-8 : 映画 初級 2-9 : 休暇		文法 (-을래, 밖에)、映画の予約について 文法 (-는데, 마다)、休日についてする活動について							
第14回	初級 2-10 : 学校生活		文法 (-을 것, -을 수밖에 없다)、大学の規則について							
第15回	復習・まとめ		まとめ							
授業方法 (わ ず ア ラ ン グ 等)	クイズ、小テスト	理解度チェック	授業中のノート取り	ジグソー・リー ディング	発表、ポスター作成					
評価 方法 及び 評価 基準	<p>① 文法小テスト (30%)</p> <p>② ワークブック (30%)</p> <p>③ 筆記試験 (40%)</p>									
課題等	<p>① ワークブックは白紙に答えだけを書き、自己採点をしてから、紙で提出してください。</p> <p>② 筆記試験はTOPIKの過去問から問題を出します。教科書の復習問題を参考してください。</p>									
事前事後 学修	<p>① 事前学修：教科書に出ている単語で単語集を作成してください。単語集の単語を覚えてきてください。</p> <p>② 事後学修：教科書の各チャプタに対するワークブックに取り組んでください。</p> <p>③ 必要な学修時間は週に3時間以上です。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>① 世宗学堂韓国語 1 ISBN 979-11-6904-323-6 (データで配布)</p> <p>② 世宗学堂韓国語 1 教材 ISBN 979-11-6904-400-4 (93710) (データで配布)</p> <p>③ 世宗学堂韓国語 2 ISBN 979-11-6904-342-7 (データで配布)</p> <p>④ 世宗学堂韓国語 2 教材 ISBN 979-11-6904-429-5 (93710) (データで配布)</p>									
留意点	<p>① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。</p> <p>② 本講義は会話中心の講義です。パートナーと話したり、発表したりすることが毎時間あります。</p>									

科目名	韓国語D (a) (b)		科目コード	(a) W24029 (b) W24033	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-34. S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	ケン・テホ				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	国際通用韓国語標準教育課程 1 級と 2 級の韓国語の文法と単語を学びます。学んだ韓国語を読む、聞くようになります。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの 1, 2, 3, 4 に関連し、カリキュラムポリシーの 1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2 に関連する。									
到達 目標	① 国際通用韓国語標準教育課程 1 級に必要な約 18 個の文法内容を学びます。 ② 国際通用韓国語標準教育課程 1 級に必要な約 144 個の単語を学びます。 ③ 国際通用韓国語標準教育課程 2 級に必要な約 23 個の文法内容を学びます。 ④ 国際通用韓国語標準教育課程 2 級に必要な約 125 個の単語を学びます。 ⑤ 韓国の文化を学びます。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	前期の復習			初級 1-1 から 12 まで						
第2回	初級 1-13 : 趣味 1 初級 1-14 : 旅行			趣味について 旅行計画について						
第3回	初級 1-15 : 健康 1 初級 1-16 : 交通			健康症状について 目的地まで行く方法						
第4回	韓国の文化 1			韓国の伝統音楽						
第5回	初級 1-17 : 招待 初級 1-18 : 余暇時間			家に招待する 目的地まで行く方法						
第6回	初級 1-19 : 方向 初級 1-20 : 訪問			家に招待する 友だちの家の訪問						
第7回	韓国の文化 2			韓国の応援文化						
第8回	初級 2-1 : 天気 2 初級 2-2 : 買い物 2			天気を推測する 買い物の場所						
第9回	初級 2-3 : 外見 初級 2-4 : 買い物 3			外見の描写 食材について						
第10回	韓国の文化 3			韓国の民族性と民主主義						
第11回	初級 2-5 : 注文 初級 2-6 : 休暇			注文する時の表現 休暇計画について						
第12回	初級 2-7 : 休暇 初級 2-8 : 休暇			健康状態と治療方法について 映画の予約について						
第13回	初級 2-9 : 休暇 初級 2-10 : 休暇			休日についてする活動について 大学の規則について						
第14回	復習・まとめ			スピーキングテストの練習						
第15回	復習・まとめ			スピーキングテストの練習						
授業方法 (わ ず、 ア ・ テ キ ン グ 等)	グループワーク	ディベート	ロールプレイング	発表、ポスター作成	まとめアクティ ティ	クイズ、小テスト				
評価 方法 及び 評価 基準	① 単語テスト (30%) ② 課題 (作文・自由発表) (30%) ③ スピーキングテスト (40%)									
課題等	① 作文は青森の観光地を紹介する案内文を書きます。教科書に紹介されている文法を最大活用することを目標にします。 ② 自由発表は発表の技術を含め、自然にメッセージを伝えるかを評価します。									
事前事後 学修	① 事前学修: 教科書に出ている単語で単語集を作成してください。講義で発表する台本を準備してください。 ② 事後学修: 韓国語の動画 (映画・ドラマなど) を毎週 1 時間以上視聴してください。単語集の単語を覚えてきてください。③ 必要な学修時間は週に 3 時間以上です。									
教材 教科書 参考書	① 世宗学堂韓国語 1 ISBN 979-11-6904-323-6 (データで配布) ② 世宗学堂韓国語 1 教材 ISBN 979-11-6904-400-4 (93710) (データで配布) ③ 世宗学堂韓国語 2 ISBN 979-11-6904-342-7 (データで配布) ④ 世宗学堂韓国語 2 教材 ISBN 979-11-6904-429-5 (93710) (データで配布)									
留意点	① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。 ② 本講義は会話中心の講義です。パートナーと話したり、発表したりすることが毎時間あります。									

科目名	英語Ⅱ		科目コード	W24007		単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFCB0-35		時間	60時間				
区分	共通基盤科目 教職科目	選択必修	担当者名	ウォータース・グレン・ユースタス				授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 In this course, the students will develop stronger skills to read and answer questions in English on a wide range of situations. Upon completion of the course, students will be able to confidently read, answer questions about and discuss past, present and future events 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>										
到達目標	English II is a dialogue-based course for beginning students of English. All lessons have modern English vocabulary; each student will have many chances to practice all four skills (listening, speaking, writing, and reading) while focusing upon how to speak authentic American English. Feedback will be provided weekly by the teacher. The students will increase their communication ability by way of active learning. Working with a partner or in a group to help them understand each other.										
授業計画											
回	主題	授業の概要			備考	回	主題	授業の概要			備考
第1回	Course Orientation and teacher introduction	Instructor explains course objectives				第16回	Course orientation and instructor introduction	Instructor explains course objectives			
第2回	UNIT 1 A world of difference	Students will learn to differentiate between tenses and understand negative questions.			pair-work, group-work and discussion	第17回	UNIT 7 Passions and fashions	Students will learn present perfect; simple and continuous, passive, adverbs, and time expressions.			pair-work, group-work and discussion
第3回	UNIT 1 A world of difference	Students will learn parts of speech: meaning, spelling and pronunciation, word of formation, and words that go together.			pair-work, group-work and discussion	第18回	UNIT 7 Passions and fashions	Students will learn about spoken English and answer questions about Soccer around the world.			pair-work, group-work and discussion
第4回	UNIT 2 The work week	Students will read about and practice present tenses: simple and continuous, stative verbs, and present passive.			pair-work, group-work and discussion	第19回	UNIT 8 No fear!	Students will understand idioms and body language.			pair-work, group-work and discussion
第5回	UNIT 2 The work week	Students will learn positive and negative adjectives.			pair-work, group-work and discussion	第20回	UNIT 8 No fear!	Students will read about and answer questions about Dangerous trips in history.			pair-work, group-work and discussion
第6回	UNIT 3 Good times, bad times	Students will learn Past tenses: simple continuous, past perfect, and also the usage of used to.			pair-work, group-work and discussion	第21回	UNIT 9 It depends how you look at it	Students will learn about conditionals and will be able to use them.			pair-work, group-work and discussion
第7回	UNIT 3 Good times, bad times	Students will read about Romeo and Juliet and be able to answer the questions in the unit.			pair-work, group-work and discussion	第22回	UNIT 9 It depends how you look at it	Students will learn and be able to use words with similar meaning.			pair-work, group-work and discussion
第8回	Review	Review quiz				第23回	Review	Review quiz			
第9回	UNIT 4 Getting it right	Students will learn modal and related verbs: advice, obligation, and permission.			pair-work, group-work and discussion	第24回	UNIT 10 All things high tech.	Students will study noun phrases: articles, prepositions, and compound nouns.			pair-work, group-work and discussion
第10回	UNIT 4 Getting it right	Students will read about and answer questions about kids in the 1970s and now.			pair-work, group-work and discussion	第25回	UNIT 10 All things high tech.	Students will read about and discuss "21st century city".			pair-work, group-work and discussion
第11回	UNIT 5 Our changing world	Students will learn future forms: will, going to, and future possibilities—may, might, could.			pair-work, group-work and discussion	第26回	UNIT 11 Seeing is believing.	Students will learn about past and present probability.			pair-work, group-work and discussion
第12回	UNIT 5 Our changing world	Students will read and study Future possibilities. Expressing the future and life in 2065.			pair-work, group-work and discussion	第27回	UNIT 11 Seeing is believing.	Students will read The Adventure of Sherlock Homes and answer questions.			pair-work, group-work and discussion
第13回	UNIT 6 What matters to me	Students will learn about informational questions.			pair-work, group-work and discussion	第28回	UNIT 12 Telling it like it is.	Students will study reported speech, reported thoughts, and reported questions.			pair-work, group-work and discussion
第14回	UNIT 6 What matters to me	Students will learn how to use adjectives and adverbs to describe people, places and things.			pair-work, group-work and discussion	第29回	UNIT 12 Telling it like it is.	Students will read and discuss about the people who changed the world.			pair-work, group-work and discussion
第15回	Wrap-up	Students will be able to understand the structure of English grammar and be able to communicate with each other.				第30回	Wrap-up	Students will be able to understand the structure of English grammar and be able to communicate with each other with confidence.			
授業方法(ワ デモド、7974 ブ・ラング等)	ペアワーク	グループワーク	Pair-work, group-work and discussion								
評価方法及び評価基準	Class Participation:30%; Class Activities/Homework: 30%; Final Examination : 40%. Over 60% of total is needed to pass this course.										
課題等	Homework and assignments will be announced at the end of each lesson.										
事前事後学修	At least 30 to 60 minutes should be spent in preparation of each class and at least 30 minutes of review for each lesson.										
教材教科書参考書	American Headway Level 3 Student Book w/ MultiROM (ISBN: 978-0-19-472611-5), and American Headway Level 3 Workbook (ISBN: 978-0-19-472614-6)]										
留意点	Studying English as a second language is a cumulative activity. If you study English even a little bit everyday, you will enjoy this course more. Preparation, review, a positive attitude in class is important. Students will work with their partner or group to experience pair working, group discussion as active learning.										

科目名	英語Ⅱ		科目コード	W24008	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-BFCB0-36	時間	60時間					
区分	共通基盤科目 教職科目	選択 必修	担当者名	奥野 忠徳			授業 形態	講義	単独		
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 様々な場面で自然な英語表現が使えるように徹底的なトレーニングをします。 会話で必要となる文法力と語彙力を鍛える徹底的なトレーニングをします。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>										
到達 目標	場面に即した英語表現が即座に使えるようになるのを目標とします。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	introduction	この授業で行うことの導入				第16回	使える文法・英語特訓 (15)	should (2)、英文の特訓 (15)			
第2回	使える文法・英語特訓 (1)	willとbe going to (1)、英文の特訓 (1)				第17回	使える文法・英語特訓 (16)	should (3)、英文の特訓 (16)			
第3回	使える文法・英語特訓 (2)	willとbe going to (2)、英文の特訓 (2)				第18回	使える文法・英語特訓 (17)	had betterとit's time to構文、 英文の特訓 (17)			
第4回	使える文法・英語特訓 (3)	ifとwhen (1)、英文の特訓 (3)				第19回	使える文法・英語特訓 (18)	would (1)、英文の特訓 (18)			
第5回	使える文法・英語特訓 (4)	ifとwhen (2)、英文の特訓 (4)				第20回	使える文法・英語特訓 (19)	would (2)、英文の特訓 (19)			
第6回	使える文法・英語特訓 (5)	can (1)、英文の特訓 (5)				第21回	使える文法・英語特訓 (20)	Can you/Could you ?, 英文の特訓 (20)			
第7回	使える文法・英語特訓 (6)	can (2)、英文の特訓 (6)				第22回	使える文法・英語特訓 (21)	仮定法過去 (1) (If ...), 英文の特訓 (21)			
第8回	使える文法・英語特訓 (7)	mustとcan't (1)、英文の特訓 (7)				第23回	使える文法・英語特訓 (22)	仮定法過去 (2) (I wish ...), 英文の特訓 (22)			
第9回	使える文法・英語特訓 (8)	mustとcan't (2)、英文の特訓 (8)				第24回	使える文法・英語特訓 (23)	仮定法過去完了、英文の特訓 (23)			
第10回	使える文法・英語特訓 (9)	mayとmight (1)、英文の特訓 (9)				第25回	使える文法・英語特訓 (24)	受動態 (1)、英文の特訓 (24)			
第11回	使える文法・英語特訓 (10)	mayとmight (2)、英文の特訓 (10)				第26回	使える文法・英語特訓 (25)	受動態 (2)、英文の特訓 (25)			
第12回	使える文法・英語特訓 (11)	mustとhave to (1)、英文の特訓 (11)				第27回	使える文法・英語特訓 (26)	It is said that構文、英文の特訓 (26)			
第13回	使える文法・英語特訓 (12)	mustとhave to (2)、英文の特訓 (12)				第28回	使える文法・英語特訓 (27)	have something done構文、英文の特訓 (27)			
第14回	使える文法・英語特訓 (13)	must, mustn't, needn't, 英文の特訓 (13)				第29回	使える文法・英語特訓 (28)	間接話法 (1)、英文の特訓 (28)			
第15回	使える文法・英語特訓 (14)	should (1)、英文の特訓 (14)				第30回	使える文法・英語特訓 (29)	間接話法 (2)、英文の特訓 (29)			
授業方法 (わ ず の ア プ ロ ア チ ン グ 等)	授業中のノート取り										
評価 方法 及び 評価 基準	毎週行うトレーニングの成果(60点)、期末試験(40点)で評価します。 英語での会話が即座に正しい発音でできるかどうかを重点的に評価します。										
課題等	特になし。										
事前事後 学修	事前に当日の文法事項を予習しておくこと。事後は授業で行った課題をさらにトレーニングしておくこと。										
教材 教科書 参考書	教科書は使用しません。										
留意点	英語の徹底的なトレーニングなので、欠席はしないようにしてください。90分間一切気を抜くことはできません。										

科目名	海外研修 I		科目コード	W24034	単位数	1単位	対象 学年	1~4年	開講 学期	前期
			科目ナバリング	W-BFCB0-37	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 This course will prepare students for study abroad in English-speaking countries with programs sponsored by Hirosaki Gakuin University study abroad program. 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達目標	This course is a study abroad preparation course that will prepare students for their experience abroad in English-speaking countries. Students will learn how to interact with others in English and deal with cultural differences during study abroad while understanding the differences between Western and Japanese cultures.									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	Course Orientation and Program Introduction		Instructor explains course objectives and university study abroad programs. Western cultures reading assignment will be explained.						Group Discussions	
第2回	On the Plane		Students will learn about what to expect when traveling to their study abroad experience & practice in pairs.						Create a dialogue	
第3回	Airport Arrival Procedures		Students will learn what to expect when they arrive at the airport and practice going through customs and immigration in pairs.						Fill out customs forms	
第4回	Meeting the Host Family		Students will learn what to expect when they meet their homestay family and practice greetings in pairs.						Create a dialogue	
第5回	Living with Host Families		Students will consider how and live with the host families and discuss gifts for host families as a class.						Group Discussions	
第6回	Sharing Japanese Culture		Students will consider how and what to share about Japanese culture and will also discuss gifts for host families as a class.						Explain a Japanese gift	
第7回	Orientation		Students will learn what to expect when they begin orientation at their study abroad university.						Cultural Portfolio Page	
第8回	Making friends		Students will discuss how to make friends at study abroad programs in pairs and groups.						Cultural Portfolio Page	
第9回	Seeking Medical Care		Students will learn how to get treatment for medical issues while studying abroad.						Cultural Portfolio Page	
第10回	Seeking Medical Care		Students will continue to learn about treatment for medical issues while studying abroad.						Cultural Portfolio Page	
第11回	Shopping		Students will discuss foreign money and shopping in foreign stores; practicing in groups.						Cultural Portfolio Page	
第12回	Airport Departure Procedures		Students will learn what to expect when departing their study abroad and practice in groups.						Cultural Portfolio Page	
第13回	Giving Presentations		Students will discuss how to give presentations in study abroad classes in groups.						Cultural Portfolio Page	
第14回	Cultural Portfolio Presentation		Students will present their cultural portfolios.						Cultural Presentation	
第15回	Review and Feedback		Students will review the lessons learned about how to prepare for study abroad.							
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	ジグソー・リーディング	資料記入					
	Some classes may be held on-demand using TEAMS.									
評価方法及び評価基準	Classroom participation: 10%; Cultural book reading assignment: 15%; Cultural Presentation (graded on content & English language accuracy using a rubric): 25%; Japanese culture version of the Cultural Portfolio (graded on content & English language accuracy using a rubric): 50%.									
課題等	Missed assignments should be submitted before the following class; the student is responsible for submitting missed assignments. Students will be asked to use their smartphones for class assignments every week.									
事前事後学修	Pre-class reading materials and assignments should be completed and understood before coming to class. Expected preparation time: 90 mins. per day.									
教材教科書参考書	<i>Across Borders: Preparing for Study Abroad</i> , Tsuji et al. (2024), Sanshusha [ISBN: 978-4-384-33528-6]. The professor will also provide handouts and materials. Students must have a smartphone or computer for activities.									
留意点	Students must attend scheduled classes and must submit drafts and work according to the professor's requirements. Students should inform the professor PRIOR to absences whenever possible.									

科目名	海外研修Ⅱa (アメリカ)		科目コード	W24035	単位数	2単位	対象 学年	1~4年	開講 学期	集中
			科目ナンバリング	W-BFCB0-38	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	国際交流委員				授業 形態	実習	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	<p>本科目は、弘前学院大学の海外研修プログラムに参加した学生に、認定海外研修プログラムへの単位を付与します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	英語圏又は主に英語で行われる短期海外研修プログラムを成功的に履修することによって単位取得をし、習得した単位が本学によって読み替えられ個人の獲得した単位となること。単位を取得するには、弘前学院大学が承認した留学プログラムを修了する必要があります。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
<p>この科目は海外研修先が提供している科目であるため科目授業内容は大学によって異なる。各々のプログラムはとて特色があり興味深いものである。全ての学生は単位を取得するために積極的な参加が必要である。単位を取得するためには、海外研修に出発する前に国際交流委員会の承認を受ける必要があります。</p>										
授業方法(わ てり、対 ア、レ ア、シ ン、グ 等)	特になし									
評 価 方 法 及 び 評 価 基 準	海外研修先の科目担当の教員による成績評価がなされた後、本学に成績表が送付される。									
課題等	海外研修先の科目担当の教員によって決められる。									
事前事後 学修	事前準備のために海外研修ⅠAの履修が望まれる。学生は出発前に海外研修先に必要な準備作業を完了しなければなりません。									
教材 教科書 参考書	海外研修先の科目担当者によって決められる。学生は、海外研修プログラム担当者が指定したすべての教科書とプログラム資料を購入する必要があります。									
留意点	研修プログラムに参加する全ての学生は全面的なプログラムへの参加が求められている。									

科目名	海外研修Ⅱb(韓国)		科目コード	W24036	単位数	2単位	対象 学年	1~4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFCB0-39	時間	60時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	国際交流委員・鹿嶋英愛			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 本科目は本学と提携を結んでいる韓国姉妹大学が提供している短期間の語学研修プログラムや交換留学に参加する本学学生が留学先での生活及び学修に必要な意思疎通機能を集中的に向上させるためのクラスである。また、それらに参加しない学生も歓迎する。参加する学生には初級レベルまでの韓国語学習を終えた方が望まれる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
	到達 目標	語学研修や留学先で、大学講義の受講のための韓国語、特にスピーキング能力を身に着ける。								
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)	備考	この科目は韓国にある海外研修先が提供している科目であるため科目授業内容は大学によって異なる。各々のプログラムはとて特色があり興味深いものである。全ての学生は単位を取得するために積極的な参加が必要である。単位を取得するためには、海外研修に出発する前に国際交流委員会の承認を受ける必要があります。		
第1回	オリエンテーション 오리엔테이션	授業の進め方と、評価方法について説明		第16回						
第2回	比較する 비교하기	「次の表現」を使い同じ点と異なる点を比較する ・ 같은 점과 다른 점 말하기 「-지만 /-는데 /-고」	p11 課題①	第17回						
第3回	長所・短所をいう 장단점 말하기	「次の表現」を使い長所と短所について話す ・ 좋은 점과 나쁜 점 말하기 「-지만 /-기는 하지만」	課題① 発表 p15 課題②	第18回						
第4回	並べる 나열하기	「まず/次に/最後に…」を使い事実を並べる ・ 나열해서 말하기 「나열할 때 쓰는 담화 표지」	課題② 発表 p19 課題③	第19回						
第5回	理由をいう 이유 말하기	「次の表現」を使い理由を説明する ・ 이유 설명하기 「-어서 /-으니까 /-기 때문에」	課題③ 発表 p23 課題④	第20回						
第6回	発表を始める 발표 시작하기	「発表を始める時の表現」を使い発表を始める ・ 발표를 시작하기 「발표를 시작할 때 쓰는 표현」	課題④ 発表 p27 課題⑤	第21回						
第7回	意見を提示する 의견 제시하기	「意見提示の表現」を使い自分の考えや意見を提示する ・ 생각이나 의견을 제시하기 「의견을 제시할 때 쓰는 표현」	課題⑤ 発表 p31 課題⑥	第22回						
第8回	根拠を示す 근거 설명하기	「次の表現」を使い資料と根拠を提示し説明する ・ 자료와 근거 제시하여 말하기 「-을/를 보면, -에 따르면」	課題⑥ 発表 p35 課題⑦	第23回						
第9回	詳細に説明する 자세히 설명하기	「説明を加える時使う表現」を使い詳しく説明する ・ 자세히 설명하기 「덧붙여 말할 때 쓰는 표현」	課題⑦ 発表 p39 課題⑧	第24回						
第10回	発表をまとめる 발표 마무리하기	「次の表現」を使い発表内容を要約しまとめる ・ 발표 내용을 요약하여 말하기 「-는다는 말입니다/정리하면」	課題⑧ 発表 p43 課題⑨	第25回						
第11回	プレゼンの話し方 프레젠테이션 잘하기	自然な抑揚と速度はどのように、表情や姿勢について ・ 발음과 속도, 억양, 자세에 대하여	課題⑨ 発表 p47 課題⑩	第26回						
第12回	プレゼンターマを決める 프레젠테이션 주제 정하기	プレゼンターマを決め、内容を韓国語で作成してみる ・ 프레젠테이션 주제를 정하고 내용을 한국어로 작성	課題⑩ 発表 プレゼン ⑩	第27回						
第13回	ディスカッション 토론	プレゼン内容についてクラスの人と話合ってみる ・ 프레젠테이션 내용에 대해 서로 이야기하기	プレゼン ⑩ 紹介	第28回						
第14回	プレゼンテーション 프레젠테이션	プレゼンをする クラスの学生全員が採点する ・ 프레젠테이션	プレゼン ⑩ 発表	第29回						
第15回	レビューとフィードバック 리뷰 피드백	レビューとフィードバック ・ 리뷰와 피드백		第30回						
授業方法(わ ず、77分 ブ・ラング等)	特になし									
評価 方法 及び 評価 基準	・ 授業への参加 (25%) 課題①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (50%) プレゼン⑪ (25%) ・ プレゼンの採点は、発表者以外の学生と講師が行う ・ 期末テストは行わない									
課題等	・ 課題は次回授業中で発表後提出する。各課題はそれぞれ3行~5行程度 ・ 日本語での発表も可能ですが、評価は異なる (20%減)									
事前事後 学修	・ 課題のため費やす時間は1時間程度									
教材 教科書 参考書	・ 教科書は使用しない。・ 講師がプリントを配布する。									
留意点	・ 講義に必ず出席、課題の評価は発表を含む。メールアドレス : kashima2011@hotmail.co.jp									